

令和4年度公益財団法人せたがや文化財団の経営状況に関する書類の提出

1. 実施事業

世田谷文化生活情報センター / 生活工房		世田谷文化生活情報センター / 音楽事業部	
大竹英洋写真展 ノースウッズ 生命を与える大地	6,655人	シリーズ和・華・調	217人
シュー・ウィンドウ 靴を紐とく展覧会	15,447人	せたがや音楽研究所	270人
岡本仁の編集とそれにまつわる何やかや。	14,116人	世田谷アーティスト支援企画 Discovery Setagaya Sounds	280人
続・セタガヤママ展 小さなメディアの40年	17,156人	室内楽シリーズ	582人
セミナー 対話の効能〈わたし〉と〈あなた〉のあわい	474人	せたがやジュニアオーケストラオータムコンサート	347人
若年層向けセミナー「どう？就活 自分と仕事の出会い方 Vol.2」	92人	せたがやジュニアオーケストラ運営	94人
展覧会：「世田谷パブリックシアター開場25周年記念ポスター展」、「生活工房常設展示 生活工房アレコレ2022」 セミナー・ワークショップ：「ガムテープのズック屋さん」、「穴アークイブ2022」、「おはなしいっぱい」 ほか		連携コンサート、せたがや名曲コンサート、音楽講座、せたがやまちかど・まちなかコンサート ほか	
総入場者数	159,741人	総入場者数	6,350人
世田谷文化生活情報センター / 世田谷パブリックシアター			
倉持裕 作・演出作品 『お勢、断行』	7,556人	生田みゆき演出作品 『建築家とアッシリア皇帝』	4,382人
海外招聘ダンス ピーピング・トム『マザー』	1,717人	野村萬斎演出作品 『ハムレット』	7,261人
りゅーとぴあ×世田谷パブリックシアター 『住所まちがい』	6,169人	五戸真理枝演出作品『毛皮のヴィーナス』、学校のためのワークショップ、移動劇場「@ホーム公演」、せたがやこどもプロジェクト2022、カンパニーXY with ラシッド・ウランタン「Möbius／メビウス」、「芸術監督対談企画」、「地域の物語」 ほか	
栗山民也演出作品 『夏の砂の上』	12,500人	総入場者数	214,182人
世田谷文化生活情報センター / 国際事業部			
せたがや国際交流センターの運営	4,012人	多文化理解講座	307人
にほんご交流会	222人	ウクライナ支援 映画「ひまわり」上映会、やさしい日本語でまち歩き ほか	
区民国際交流事業	2,085人	総入場者数	7,056人
世田谷美術館		世田谷文学館	
出版120周年 ピーターラビット™展	67,321人	ヨシタケシンスケ展かもしれない	59,843人
こぐまちゃんとしろくまちゃん 絵本作家・わかやまけんの世界	44,395人	シーズン展示 漫画家・山下和美展 ライフ・イズ・ビューティフル	3,408人
宮城壮太郎展 使えるもの、美しいもの	8,649人	月に吠えよ、萩原朔太郎展	8,789人
祈り・藤原新也	24,866人	コレクション展前期 開館25周年記念 セタブン大コレクション展 PARTⅡ 山ありてわが人生は楽し	9,163人
世田谷美術館コレクション選 わたしたちは生きている！セタビの森の動物たち	7,657人	コレクション展後期 下北沢猫町散歩	7,375人
本館ミュージアム コレクション（前年度からの継続含め年4回）、各分館収蔵品展（年2回）	73,802人	ライブラリー「ほんとう」の運営	22,559人
講座・ワークショップ、鑑賞教室 ほか		どこでも文学館（出張展示、0歳からのジャズコンサート、ワークショップなどの教育普及事業）	251,673人
総入場者数	352,362人	人形劇「りんごかもしれない」 ほか	
		総入場者数	375,167人

2. 損益計算書(正味財産増減計算書)

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位:円)

2

科 目		公益目的事業会計			収益事業等会計			法人会計	内部取引等 消去	合計
		公1	公2	小計	収1	収2	小計			
		文化芸術の振興、 地域文化創造活動 の支援及び教育普 及に関する事業	市民活動の支援 及び 振興に関する事業		物品販売事業	飲食物提供事業				
I 一般正味財産の部										
1 経常増減の部										
(1)経常収益										
	基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	2,869,012		2,869,012
	特定資産運用益	680,783	0	680,783	0	0	0	0		680,783
	事業収益	1,292,367,613	641,100	1,293,008,713	57,062,576	3,091,166	60,153,742	0		1,353,162,455
	受取区補助金	1,189,446,000	48,295,000	1,237,741,000	0	0	0	0		1,237,741,000
	受取助成金等	114,563,812	0	114,563,812	0	0	0	0		114,563,812
	受取負担金	6,355,991	0	6,355,991	438,771	7,109,000	7,547,771	0		13,903,762
	雑収益	345,828	0	345,828	600	0	600	0		346,428
経常収益計(A)		2,603,760,027	48,936,100	2,652,696,127	57,501,947	10,200,166	67,702,113	2,869,012		2,723,267,252
(2)経常費用										
	事業費	2,584,183,377	29,197,012	2,613,380,389	25,021,628	7,743,106	32,764,734			2,646,145,123
	管理費			0			0	5,942,692		5,942,692
経常費用計(B)		2,584,183,377	29,197,012	2,613,380,389	25,021,628	7,743,106	32,764,734	5,942,692		2,652,087,815
当期経常増減額(C)=(A-B)		19,576,650	19,739,088	39,315,738	32,480,319	2,457,060	34,937,379	△ 3,073,680		71,179,437
2 経常外増減の部										
(1)経常外収益										
経常外収益計(D)		0	0	0	0	0	0	0		0
(2)経常外費用										
経常外費用計(E)		39,378	0	39,378	0	0	0	0		39,378
当期経常外増減額(F)=(D-E)		△ 39,378	0	△ 39,378	0	0	0	0		△ 39,378
他会計振替前当期一般正味財産増減額(G)=(C+F)		19,537,272	19,739,088	39,276,360	32,480,319	2,457,060	34,937,379	△ 3,073,680		71,140,059
他会計振替額(H)		17,431,899	0	17,431,899	△ 16,205,956	△ 1,225,943	△ 17,431,899	0		0
法人税、都民税及び事業税(I)		0	0	0	731,373	55,327	786,700	0		786,700
当期一般正味財産増減額(J)=(G+H-I)		36,969,171	19,739,088	56,708,259	15,542,990	1,175,790	16,718,780	△ 3,073,680		70,353,359
一般正味財産期首残高(K)		630,262,702	8,075,518	638,338,220	121,546,077	14,364,948	135,911,025	1,762,149		776,011,394
一般正味財産期末残高(L)=(J+K)		667,231,873	27,814,606	695,046,479	137,089,067	15,540,738	152,629,805	△ 1,311,531		846,364,753
II 指定正味財産の部										
	受取寄附金	1,706,166	0	1,706,166	0	0	0	0		1,706,166
	基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	2,869,012		2,869,012
	特定資産受取利息	65	0	65	0	0	0	0		65
	一般正味財産への振替額	65	0	65	0	0	0	2,869,012		2,869,077
	当期指定正味財産増減額(M)	1,706,166	0	1,706,166	0	0	0	0		1,706,166
	指定正味財産期首残高(N)	6,466,000	0	6,466,000	0	0	0	800,000,000		806,466,000
	指定正味財産期末残高(O)=(M+N)	8,172,166	0	8,172,166	0	0	0	800,000,000		808,172,166
III 正味財産期末残高(P)=(L+O)		675,404,039	27,814,606	703,218,645	137,089,067	15,540,738	152,629,805	798,688,469		1,654,536,919

令和4年度
公益財団法人せたがや文化財団

事業報告書
財務諸表

自 令和4年4月 1日
至 令和5年3月31日

公益財団法人 せたがや文化財団

目 次

(事業報告書)

1	令和4年度事業報告総括	1
2	事業実績	11
3	事業評価	45
4	重要な契約の概要	49
5	登記事項	50
6	理事会・評議員会開催状況	51
7	役員名簿	54
8	評議員名簿	55
9	財団幹部名簿	56

(財務諸表)

1	貸借対照表	58
2	損益計算書（正味財産増減計算書）	59
3	附属明細書	72
4	財産目録	73

(監査報告)

	監査報告書	76
--	-------------	----

事業報告書

1. 令和4年度事業報告総括

(1) 財団全体の取組

せたがや文化財団は、世田谷区の文化・芸術振興におけるパートナーとして、財団の定款の目的に掲げる「幅広い文化・芸術事業の展開と多様な文化創造活動や市民活動などの支援」の実現に向け、取り組みを進めてきた。

令和4年度のせたがや文化財団は、コロナ禍以降、全館において、初めて年間を通じて臨時休館することなく運営することができたことに加え、各館の状況に応じた創意工夫などにより、財団全体での施設入場者・事業参加者数は、コロナ禍以前をも大きく上回る約111万人を超えるものとなった。このうち、白井晃芸術監督のもとでの初年度となった世田谷パブリックシアターでは、5月の『お勢、断行』、11月の『夏の砂の上』、3月の『ハムレット』は全国各地でも上演し、好評を得た。また、「トラム、二人芝居」と銘打った8月の『毛皮のヴィーナス』、11～12月の『建築家とアッシリア皇帝』はいずれも主要な演劇賞を受賞した。美術館の「ピーターラビット™展」や「絵本作家・わかやまけんの世界」展、動物をキーワードに収蔵作品を紹介した「セタビの森の動物たち」展には、親子連れなど従来の美術展とは異なる層の来場者も多く、様々な年代、多様な関心に応える企画展となった。文学館の「ヨシタケシンスケ展かもしれない」は、従来の絵本原画展の手法から脱却し、ヨシタケ氏が考案するアトラクションで作品世界を楽しむ趣向を取り混ぜるなど新しい文学館のスタイルを示すことができた。また、財団各部の連携による事業として、生活工房での世田谷パブリックシアター主催公演のポスター展、世田谷文学館と連携した大竹英洋氏の「ノースウッズ」の写真展、音楽事業部による世田谷美術館での荒井良二氏のライブ、国際事業部が区との共催、技術部の協力のもと開催した映画「ひまわり」上映会などに取り組んだ。このほか、コンプライアンス方針を策定し、事務スペースだけでなく、楽屋や稽古場にも掲示したほか、ホームページにも掲載し、財団内に限らず、関係機関や関係者とともに誰ひとり取り残さず取り組んでいくこととした。財務面では、公益目的事業比率(注)は概ね99%であった。損益は、経常収益が27億2,326万余円、経常費用が26億5,208万余円で、当期経常増減額は7,117万余円の増となった。

コロナ禍による影響は、今後も継続するものと思われるが、財団は、このような時だからこそ、文化・芸術が持つ力を最大限に発揮し、人々を繋ぎ、次世代が希望を持ち続けるための一助となるような取り組みを、区とともに進めていく。

(注)公益目的事業比率：公益法人の活動全体における公益目的事業活動の割合がその費用額において、50%以上であることを求めるもの(公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第15条)

各事業部の事業参加者・施設入場者数の推移(人)

年度	生活工房	パブリックシアター	音楽事業部	国際事業部	美術館	文学館	合計
令和 4(2022)	159,741	214,182	6,350	7,056	352,362	375,167	1,114,858
令和 3(2021)	212,399	147,748	2,608	5,047	276,315	270,977	915,094
令和 2(2020)	44,163	100,974	3,189	2,214	151,349	165,620	467,509
令和元(2019)	113,845	228,234	5,331	—	259,088	252,502	859,000
平成 30(2018)	132,017	220,974	16,158	—	302,460	267,931	939,540

(オンライン参加者数を含む。世田谷アートタウン「三茶 de 大道芸」は含まず)

(2)各事業部事業

《世田谷文化生活情報センター》

① 生活工房

生活工房では、「暮らし×デザイン」を柱に、生活・文化を幅広い視野で捉え、展覧会、ワークショップ、セミナー等を開催した。令和4年度も新型コロナウイルスの影響が続いたが、対面とオンラインを効果的に活用して事業を継続した。合わせて展覧会や講座の映像記録や音声記録の制作、公開等情報コンテンツの充実を図り、情報発信に努めた。世田谷パブリックシアター、世田谷文学館との共催による展覧会や、提携事業にも力を入れた。

施設運営においては、感染拡大の状況に応じ世田谷区の定めるガイドラインに従い、定員や利用時間、利用内容の制限を行いつつ、感染予防対策を徹底し、区民が安心して施設を利用できるよう努めた。

公1-2「文化芸術の啓発、体験に資する展覧会」

世田谷文化生活情報センター開館25周年を記念する世田谷パブリックシアターとの提携事業として、平成9年度の柿落としから令和3年度までの、世田谷パブリックシアター主催公演から厳選したポスター約90点を展示するポスター展を開催し、観劇の前後に多くの来場者が立ち寄った。また世田谷文学館と提携し、自然写真家の大竹英洋氏による北米の湖水地方「ノースウッズ」の写真展を開催した。実際に使用されたテントやキャンプ用具の展示とともに、現地で録音された環境音を流し臨場感を演出した。

くつクリエーター靴郎堂本店による「シュー・ウィンドウ 靴を紐とく展覧会」では、ギャラリー全体を靴工房を備えた靴店に見立て、ガムテープで作った靴の作品とともに靴の作り方等も解説した。会場内に設けた工房では、ガムテープの靴づくりのワークショップを不定期に開催し、参加者が作った靴を順次展示した。夏休み子どもワークショップ「ガムテープのズック屋さん」も好評で、生活に欠かせない靴についての理解、関心を広める機会となった。

マガジンハウスの雑誌編集で知られる岡本仁氏の仕事を通じ、編集の楽しさを伝える展覧会「岡本仁の編集とそれにまつわる何やかや。」では、編集のアイデアの源泉ともいえるさまざまな物で自室を再現したような空間に展示した。また岡本氏による展示解説動画を期間限定で公開した。

「続・セタガヤママ展 小さなメディアの40年」では、1980年代、子育て中の女性たちが区内の拠点「セタガヤママ」を中心に繰り広げた「生活の実験」を、ミニコミ発行やミニFM放送など、小さなメディアの実践を中心に紹介した。会場内に設けたぬりえコーナーでは、来場者の作品が壁いっぱいに貼られていき、会場を彩った。

そのほか、生活工房ギャラリーの一隅に常設展示コーナーを設置し、区内で収集した8ミリフィルムのアークাইブ「世田谷クロニクル」から、月替わり上映を通年継続した。

公1-3「文化芸術の啓発、体験、支援などの教育普及活動」

若い世代向けに前年度からスタートした「仕事」や「働くこと」を考えるワークショップ「どう？就活自分と仕事の出会い方」の第2回目を開催した。ゲストの話や参加者同士の対話を通じ柔軟で多様な生き方、働き方の可能性について考える時間となった。

また、対話がもたらす新たな発見や変化に着目した体験型セミナー「対話の効能 〈わたし〉とくあな

た〉のあわい」を開催した。対話を実践する講師によるレクチャーと対話の場を体験する全4回のプログラムは、受付開始後間もなく満席になるほど高い関心を集めた。

8ミリフィルム映像のアーカイブの活用を進める「穴アーカイブ」では、常設の月替わり上映に加え、コロナ禍で休止していた映像を囲む場「アカカブの会」を対面で再開した。また目の見える人と見えない人がいっしょに8ミリフィルムの映像を鑑賞するオンライン・ワークショップ「エトセトラの時間 見えるものと見えないものを語る会」を実施し、そこで交わされた対話の音声記録を、無音の映像に添える解説として YouTube で公開した。

公1-6「文化芸術の活性化を図るための情報提供」

新型コロナウイルスの影響が長引く中、事業や施設について常に的確な情報を届けることができるようウェブサイトや館内掲示等の更新に努めた。また「生活工房マガジン」「レポート」「生活工房×ひと」等、ウェブサイトの記事を充実させた。WEB のアクセス解析を行い、より効果的な情報発信に活かすとともに、新たに WEB 広告を導入し SNS の情報発信を強化した結果、Instagram のフォロワー増(新規フォロワーが344増)等の効果を確認できた。そのほか、新聞、雑誌、ラジオ等媒体への情報提供も積極的に行った。

情報のデジタル化が進む中、生活に浸透しデザインと切り離すことのできない紙媒体の文化継承も意図し、情報誌「季刊 生活」と、年次報告書「アニュアルレポート」を編集、発行した。

事業アーカイブの充実と活用促進にも力を入れた。「シュー・ウィンドウ 靴を紐とく展覧会」では、会期中のイベント「靴を紐トーク」、「ガムテープのズックやさん」の各映像記録と、展覧会 CM 画像の3本、「エトセトラの時間 見えるものと見えないものを語る会」ではワークショップでの対話の音声記録1本、「どう？就活」では音声記録を6本、「岡本仁の編集とそれにまつわる何やかや。」では期間限定の展示解説(注：公開終了)を生活工房の YouTube チャンネルで公開した。「対話の効能 〈わたし〉とくあなた〉のあわい」、「アカカブの会」の記録映像も公開予定である。令和4年度の YouTube チャンネル総再生回数は約31,000回となった。

なお、生活工房の YouTube チャンネルでは過年度事業も含め動画を公開しているが、その中で視聴数が多いものは34,000回にのぼっている。

公1-8「文化芸術の拠点施設の管理運営」

指定管理者として、貸館対象であるセミナールーム AB、ワークショップルーム AB の管理運営を行った。新型コロナウイルスの感染拡大が長引く中、引き続き世田谷区のガイドラインに沿って施設を運営し、施設利用に関する情報を随時更新、提供した。また、ワークショップルーム AB については、前年度に続き令和5年1月末まで世田谷区のワクチン集団接種会場として使用されたため、運営に協力した。

公2-1「市民活動の支援及び振興に関する事業」

「市民活動支援コーナー」の運営では、公募を経て選定した運営団体との新たな5か年契約がスタートした。利用団体登録のあり方や利用団体情報ファイルの取扱い等について、個人情報保護と、管理の合理性という観点から見直しを行った。イベントでは、身近なまちづくりの担い手を囲むトークイベント「ちかくのとく」を対面とオンラインのハイブリッドにより、シリーズ開催した。「世田谷アートフリマ」は前年に続き中止したが、代替事業として「世田谷アートフリマ presents 1DAY ワークショップ」を夏休みの子ども向けイベントとして開催した。

② 世田谷パブリックシアター

世田谷パブリックシアターは、1997年に開場し、主劇場（世田谷パブリックシアター）とシアタートラムの2つの劇場と大小3つの稽古場を中心に、「新しい作品とレパートリーの創造」、「国際的な共同制作」、「地域や学校その他の区内施設との連携」、「普及啓発・人材養成事業」、「国内の公共劇場との連携」等を柱に、国内外に発信する創造型の公共劇場として活動している。令和4年度から芸術監督が白井晃に交代し、新たな展開を図る節目の年となった。

公1-1「文化芸術の振興に資する展覧会、公演等の企画・実施及び調査研究」

国内演劇創作事業として、主劇場で4本、シアタートラムで2本の作品を上演した。主劇場では5月に『お勢、断行』、9～10月に『住所まちがい』、11月に『夏の砂の上』、3月に『ハムレット』を上演。トラムでは8月に『毛皮のヴィーナス』、11～12月に『建築家とアッシリア皇帝』を上演した。『お勢、断行』、『夏の砂の上』、『ハムレット』は全国各地でも上演し、好評を得た。令和4年度もコロナ禍の影響は大きかったが、感染症対策を徹底して事業を実施するとともに、一部公演ではアンダースタディ（代役）を準備するなどの工夫を凝らすことで、中止公演を出すことなく舞台成果を最後まで観客に届けることができた。

上演作品はいずれも観客動員もよく、また演劇界から高い評価をいただいた。特に「トラム、二人芝居」と銘打ち、初めて主催公演の演出を委託した若手演出家による2作品はいずれも主要な演劇賞を受賞した。『毛皮のヴィーナス』等の演出により五戸真理枝が第30回読売演劇大賞最優秀演出家賞を受賞。同作品の美術を担当した長田佳代子が同優秀スタッフ賞を受賞した。また『建築家とアッシリア皇帝』における演技等により、成河が第57回紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞した。

『お勢、断行』は令和2年度に上演を予定していたが、コロナ禍により直前に上演中止となったものを約2年を経てようやく上演にこぎつけることができた。『夏の砂の上』も連日満員の観客を集め、大きな注目を集めた。両作品とも多数の地方公演を実施（『お勢、断行』5か所8回、『夏の砂の上』4か所10回）し、ツアー先の各地においても好評をもって迎えられた。

また、野村萬斎前芸術監督演出の『ハムレット』、白井晃新芸術監督演出の『住所まちがい』の2本の作品を上演し、芸術監督の交代による新しいチャプターの開始を印象づけることができた。

夏休み期間には、“こどもプロジェクト”として、夏の定番事業として定着してきた春風亭一之輔プロデュースによる寄席企画『せたがや夏いちらくご』を実施。一方、これまで長く愛されてきた『お話の森』は今回をもって一旦終了とした。さらに、白井新芸術監督が子どもたちといっしょに演劇を創作する「夏の劇場・りんかん学校『流星スプーン』」を実施し、新鮮なアプローチを提示した。

ダンス/演劇の提携公演についても、コロナ禍による一部公演中止や出演者交代等が発生したものの、感染症対策を徹底することでほぼ計画通り実施することができた。

公1-3「文化芸術の啓発、体験、支援などの教育普及活動」

コミュニティプログラムや学校プログラムは、昨年度、一昨年度に引き続き新型コロナウイルスの影響により大幅な事業見直しを余儀なくされたが、これまでに蓄積された経験・知見を活用し、事業内容を絶えず検討しつつ事業を継続した。

開場以来の区民参加型企画「地域の物語」は、「看取り」をテーマとし、少子高齢化が進む社会における絆の形、別れの形を改めて見直す機会となった。センシティブなテーマではあるが、それをタブーとせず、正面から向き合うために演劇がきわめて有効であることが再確認できる事業となった。

学校でのワークショップなど、劇場外での事業は、特に年度後半においてかなり回復の兆しが見えてきた。また、これまで開催実績のなかった学校から、コロナ禍で失われたコミュニケーションの機会・能力の回復を期待しての依頼があるなど、新しい展開が見られる。さらに、部活動の地域移行が大きな社会的要請となる中、「子どものためのワークショップ」、「中学校演劇部支援」のスキームを活用して地域の中学校における演劇部活動を劇場に移行する取り組みを行なった。

高齢者施設や障害者施設を訪問して行う「移動劇場@ホーム公演」は、2年ぶりに訪問上演を再開することができた。しかしながら、コロナ前の規模には遠く及ばない状況であったため、前年度に引き続き特製DVDを作成して配付した。また、区教育委員会からの受託事業「古典芸能鑑賞教室」も前年度に続いて学校の体育館に出向く形で実施することで、1回あたりの参加人数を減らし、回数を増やして実施するなど、工夫を凝らして事業を行なった。

公1-4「文化芸術活動の発表の機会の提供」

開場以来、区民が舞台に立つ機会として恒例となってきた「フリーステージ」は2年ぶりに有観客での実施となったが、従来の自由席ではなく指定席とするなど、ガイドラインに沿った対応を行なった。また、若手実演家育成事業「シアタートラム・ネクストジェネレーション」は、応募者が固定化する傾向が見られたため、今回から対象を全国に拡大して実施した結果、関西の団体を初選出した。

公1-5「地域交流のための文化芸術事業」

秋の恒例事業となった世田谷アートタウン「三茶 de 大道芸」は、昨年、一昨年は劇場をメイン会場として実施したが、本年度は商店街会場での実施を一部再開するなど、コロナ後への布石となる試みを行なうことができた。

公1-6「文化芸術の活性化を図るための情報提供」

ホームページや広報紙誌、マスコミ媒体等を通じて、劇場の活動を広く区民等に発信した。また、学芸事業のニューズレター『学芸プログラム通信』やテーマごとに事業を詳細に紹介する冊子『CarroMag(キャロマグ)』も発行した。

公1-7「国際交流のための文化芸術事業」

新型コロナウイルスで国際交流事業が制限される中、2本の海外招聘作品を上演した。世田谷アートタウン関連企画として実施したカンパニーXY with ラシッド・ウランダン『Möbius/メビウス』は「舞台芸術の根源的な力を感じさせるものであった」(オン・ステージ新聞)、令和元年度にコロナ禍のために中止となった招聘を実現したピーピング・トム『マザー』は「現代舞踊界で最高水準の舞台であろう」(ダンスマガジン)と評されるなど、高い評価を得た。

③ 音楽事業部(せたおん)

公1-1「文化芸術の振興に資する展覧会、公演等の企画・実施及び調査研究」

新型コロナウイルスの影響が続いたが、ガイドラインを順守し、状況に合わせて実施した。

「せたがやジュニアオーケストラ オータムコンサート」は、会場の制約から、今年度もセクションごとのアンサンブルによる公演となった。作曲家に直接指導を受けたセクションもあり、団員には良い機会となったが、観客を十分に収容することができなかった。

「室内楽シリーズ」は、クラシック音楽では珍しい2つの企画を実施した。『ハラダ タカシ オンド・マルトノ宇宙からの響き』は、ハラダによる講座も行い、珍しい楽器であるオンド・マルトノを紹介する貴重な機会となった。『三船優子 & 堀越彰 ピアノとドラムの饗演』は、組み合わせの妙で、周知の名曲から新たな魅力を引き出した。小学生対象に開いたワークショップも人気を得た。

日本の伝統音楽を届ける「シリーズ和・華・調」は、なじみが薄い清元を取り上げた。舞踊を交えた演目を加えたり、演者によるトークの時間を組み込むなど、理解が進む工夫を凝らし、好評を得た。

新たな層の観客を求めて、「ミュージック・ラウンジ」を始めた。アコーディオン奏者による『Chill Music Concert』、ギタリストによる『Wood & Sound』の2公演を実施。仕事帰りの勤め人が気軽に楽しめるような内容や会場の雰囲気づくりで、従来とは違った観客、違った反応を得ることができた。

池辺晋一郎音楽監督企画の『異分野とのコラボレーション』は、前売開始後に急遽会場を変更する必要が生じ、対応に迫られたが、“気象と音楽”をテーマに、当初の予定通りの内容で実施することができた。

歴史あるアマチュア2団体、世田谷フィルハーモニー管弦楽団と世田谷区民合唱団が年に一度開いてきた『せたがや名曲コンサート』を、4年ぶりに開催。難曲のブラームス『ドイツ・レクイエム』に挑み、喝采を博した。

「連携コンサート」では、川崎市が開催する「かわさきジャズ 2022」に、世田谷区の音楽家を派遣した。また、世田谷美術館での展覧会に合わせて、キュレーションを務めた荒井良二によるライブを実施した。

公1-3「文化芸術の啓発、体験、支援などの教育普及活動」

宮川彬良スペシャル・プロデューサーの「せたがや音楽研究所」は、副題どおり“マツケンサンバを作曲者自ら大分析”。国民的ヒット曲『マツケンサンバⅡ』を楽しく研究、パーカッショニストを招き、会場をサンバの熱気で包んだ。

新企画「音楽講座」では、公演に関連した講座「アコーディオン話会」「オンド・マルトノ講座」「こどものためのピアノとドラム体験ワークショップ」を実施した他、夏休みに「まちかどテルミン小学生向け講座」も行った。また、音楽の楽しさを語るトークイベント「マイ・プレイリスト」を開催、その記録をまとめたフリーペーパーを発行した。

「せたがやジュニアオーケストラ」は、新型コロナウイルスの影響により、活動に制約を受けながらも、日常の練習に励み、夏休みには川場村で合宿練習を行った。東京フィルハーモニー交響楽団との連携が定着し、練習の指導だけでなく、ゲネプロ見学などの機会も得た。「定期演奏会」は、期待を集める若手指揮者・角田鋼亮のもと、我が国有数の演奏会場・東京オペラシティ・コンサートホールで、力一杯の演奏を聴かせた。

休止していた「学校への訪問企画」を再開。「まちなかコンサート」で好評を得たチームが、内容を中学生向けに仕立て直し、2校を訪問した。クラシックの名曲の数々を肩ひじ張らずに学び、楽しんでもらうことに成功した。

公1-4「文化芸術活動の発表の機会の提供」

「世田谷アーティスト支援企画『Discovery Setagaya Sounds』」は、前年度演奏できなかった玉川せせらぎホールに、エリック・ミヤシロを迎えた。オールスターズの名にふさわしい豪華メンバーを

従え、素晴らしい演奏を展開した。音楽に関心のある若い世代を対象に無料でリハーサルを公開し、交流する時間も設けた。

「区民チャレンジ・ライブ」では、アカペラ・グループに焦点をあてた『せたがやアカペラバトル』を開催。ライブでの予選は行わず、音源審査で決勝大会進出グループを選出したが、多様な年齢層の人々が集まり、様々なレパートリーを披露して、観客を喜ばせた。

「世田谷区民音楽団体の支援」は、例年と同じく、世田谷フィルハーモニー管弦楽団、世田谷区民合唱団、世田谷区民吹奏楽団の3団体の活動を側面から支えた。年度の前半は、練習や演奏会に制約が続いていたが、情報の共有を図りつつ、各団体の状況に応じて、活動を継続していった。

公1-5「地域交流のための文化芸術事業」

「まちかど・まちなかコンサート」は、内容を一新した『まちなかコンサート』のシリーズが人気を集めた。中町、下北沢、上北沢の各所で、それぞれ“気軽にクラシック”、“クリスマスにジャズ”、“春を集めて歌う”をテーマにした音楽会を行い、区民に生の演奏を聴く楽しさを伝えた。夏休みには、より距離の近い空間で、『まちかどテルミン 夕暮れコンサート』も実施した。

「せたがやミュージック・フェス」をこれまで実施していなかった砧地域と玉川地域で開催した。発表の機会を求める区民音楽団体、演奏会を楽しみたい観客、ともに高い人気を集め、抽選を経て選ばれた人々が集った会場は、大いに盛り上がった。

公1-6「文化芸術の活性化を図るための情報提供」

「音楽事業部広報」活動は、年間の事業計画を告知する『せたおんイベント』をリニューアルして発行した他、昨年度はじめた YouTube チャンネルや SNS での情報発信に力を入れた。

④ 国際事業部

公2-1「市民活動の支援及び振興に関する事業」

開設から3年目を迎えたせたがや国際交流センター(クロッシングせたがや)を、主に在住外国人への多言語での情報提供、相談窓口の案内、多文化共生や国際交流・国際貢献活動をしている地域活動団体の紹介などを行う施設として、初めて年間を通じて臨時休館することなく運営することができた。

ロシアによるウクライナへの侵攻開始を受け、国際事業部としては初めて補正予算を上程の上、区との共催、技術部の協力のもと、ウクライナ支援 映画「ひまわり」上映会を実施した。さらに、外国の文化や生活の違い、価値観の違い等を知ることができる「多文化理解講座」を、各回テーマを変えて7回開催したが、このうち2回は、国連 UNHCR 協会、国連 WFP 協会からそれぞれ講師を招いて、難民支援、食料支援の講座とした。

外国人と日本人の交流を目的とする事業として「にほんご交流会」を5回、このうち4回は会場をテンプル大学ジャパンキャンパスに移しての「にほんご交流会 in テンプル大学」として開催した。また、外国人と日本人がやさしい日本語を使って会話をしながら街歩きをする「やさしい日本語でまち歩き」を1回実施した。

区や地域団体、区内大学等との連携事業として「せたがや国際メッセ」を区とともに、「国際交流 in セタがや」を世田谷海外研修者の会とともに開催した。

「国際事業部広報」活動として、ホームページやSNS、メールマガジンなどによる電子媒体による発信、情報ガイドやNewsletterなどの紙媒体の発行を行った。これらに加え、ケーブルテレビによる事業紹介など多様な媒体を利用して情報発信を行った。

《世田谷美術館》

公1-1「文化芸術の振興に資する展覧会、公演等の企画・実施及び調査研究」

令和4年度は、コロナ禍でも対策などの工夫をしながら、事業を少しずつ拡げて実施した。前年度に引き続きすべての企画展について入場者数の定数管理がしやすいオンラインの日時指定制を導入する一方で、オンラインでの予約が難しい来場者へも当日枠を一定数用意し、誰もが来場し易い対応を行った。前年度から継続の「ピーターラビット™展」(3月26日～6月19日)や「絵本作家・わかやまけんの世界」展(7月2日～9月4日)は、絵本好きな来場者や親子連れなど、通常の美術展とは異なる層の来場者も多かった。世田谷ゆかりのデザイナーを紹介した「宮城壮太郎展」(9月17日～11月13日)、現役写真家の今を、過去の発表作から新作までを「祈り」という観点から再構成し展覧した「祈り・藤原新也」展(11月26日～1月29日)を開催したほか、当館の収蔵作品を動物をキーワードに、教育普及的な要素も加えて紹介した「セタビの森の動物たち」展を開催し、様々な年代、多様な関心に応える企画展を実施した。

ミュージアム コレクションでも、前年度に引き続き「ART /MUSIC」(2021年12月4日～4月10日)の後は、「美術家たちの沿線物語 大井町線・目黒線・東横線篇」(4月23日～7月24日)や、世田谷ゆかりで絵本作家の荒井良二氏のユニークな視点で当館のコレクションの魅力を紹介した「荒井良二のアールぶるっと！ こんなに楽しい世田谷美術館の収蔵品」など、収蔵品を新鮮な切り口で紹介した。また「それぞれのふたり」シリーズとして萩原朔美と榎本了壺の作品を取り上げ、会期中には、二人の幅広い人脈から構成された連続トークイベントも開催した。

3分館では、前期・後期で展示替えを行い、通年で各作家の様々な作品を楽しめる展覧会を開催した。

作品収集は、これまでの美術館の活動を通じて培われた人脈や作品の繋がりによって、様々な分野にわたって多くの貴重な作品の寄贈があった。「紀要」では、当館の収蔵品や、展覧会や事業に関連した学芸員らの日頃の調査研究、レポートが発表され、「年報」では、令和3年度の多岐にわたった美術館の運営、活動が記録としてまとめられた。

公1-3「文化芸術の啓発、体験、支援などの教育普及活動」

「美術大学」は、前年度は講義のみであったが、令和4年度は、人数を絞り、またコロナ対策として昼食を挟まずに午後だけの時間で、実技も含めた従来のプログラムに近い形で実施した。美術大学受講者OBを対象にしたステップアップ講座も感染症防止対策をして開催を行う一方、オンライン上の「自宅で毎日3分クロッキー」なども継続して行った。夏休みの子ども向け企画「ナイトツアー」も前年度に引き続き、動画視聴、来館、オンライン会議を組み合わせ実施し、宮本館でも、人数を絞って対面のワークショップを行った。プロムナード・コンサートも人数を少し増やして開催し、ポッドキャストで当日の演奏の一部と出演者と監修者との対談を配信した。「100円ワークショップ」は家で工作が楽しめるキットをボランティアが作成し販売しつつ、その場での制作も人数を絞って行った。

公1-4「文化芸術活動の発表の機会の提供」

前年度より順位付けの賞を設けない「世田谷区民絵画・写真展」は、講評者や出品者同志の交流の場として、展覧会公開日の前日にプレオープンとして、出品者のみを対象とした内覧会及び講評会の公開収録を行った。区民ギャラリーの利用についても、館と利用者が共通した安全意識を共有しながら安定的な運営を行った。

公1-5「地域交流のための文化芸術事業」

ボランティアの参加も徐々に増え、ホームページなどで当館の活動に興味を持った新規のボランティアも加わり、100円ワークショップや美術鑑賞教室などで活躍した。またさくら祭も4年ぶりに開催し、多くの友の会会員やボランティアが参加した。

「ピーターラビットTM展」や「宮城壮太郎展」では、近隣の大型商業施設である玉川高島屋 S・C で、展覧会紹介コーナーが設けられるなど、美術館と地域との交流を行っている。

公1-6「文化芸術の活性化を図るための情報提供」

友の会と連携したニュースレターの発行のほか、当館のホームページ、公式ツイートおよびフェイスブックに加え、インスタグラムなどを活用し、展覧会のほか、イベントなどについても積極的にタイムリーな情報発信を行なった。また、来館を促す展覧会紹介の動画コンテンツなどを制作した。

＜世田谷文学館＞

公1-1「文化芸術の振興に資する展覧会、公演等の企画・実施及び調査研究」

令和4年度企画展は「ヨシタケシンスケ展かもしれない」「月に吠えよ、萩原朔太郎展」に加え、新しくスタートしたシーズン展示「漫画家・山下和美展 ライフ・イズ・ビューティフル」の計3本を実施した。「ヨシタケシンスケ展かもしれない」は、今もとても人気のある絵本作家のひとりであるヨシタケ氏による、初めての大型企画展として立ち上げ、当館開催以降は全国巡回を果たしている。本展は従来の絵本原画展の手法から脱却し、ヨシタケ氏が考案するアトラクションで作品世界を楽しむ趣向を取り混ぜ、まったく新しい展示空間を作ることができた。「ちょっとずらした視点でものごとを見る」ヨシタケ氏の世界観をあらわす展示は、当館の新しいスタイルを示すことができたものと自負する。

「萩原朔太郎展」は、没後80年を記念して立ち上げられた「朔太郎大全2022」プロジェクトに賛同しての展覧会であった。2011年に企画展を開催したが、その際に訪れてくれた従来の文学ファンに加え、今回は20代～30代の若い世代の来館者が目立った。「現代詩」の受容が新しい世代にも確実に受け継がれていることを示す展覧会となった。

本年度からスタートしたシーズン展示は「漫画家・山下和美展 ライフ・イズ・ビューティフル」を開催し、「今届けたい旬な展示をいち早く」を掲げ、区内在住作家の作品を、新作も含め紹介することができた。

コレクション展は、昨年に引き続き開館25周年記念「セタブン大コレクション展PARTⅡ」と、「萩原朔太郎展」に連動して下北沢にゆかりある作家たちの収蔵資料を紹介する「下北沢猫町散歩」を開催した。「下北沢猫町散歩」では、下北沢ゆかりの作家たちの足跡をしるした大型マップを掲示し、訪れた人たちにも自分のエピソードを書いて貼ってもらった。予想以上に多くの方に参加いただき、地域の歴史が来館者一人ひとりと連なっていくことが実感できる試みとなった。

公1-3「文化芸術の啓発、体験、支援などの教育普及活動」

「どこでも文学館」は当館の基幹事業として、文化庁助成金も獲得して進展をはかってきたが、助成内容が変わったため、本年度は自主事業として実施した。内容は例年通り、出張展示とワークショップを基本にプログラムを組んだ。昨年度に引き続いて、コロナ禍でも安定した参加者があり、本事業に対する信頼と期待をあらためて知ることになった。出張展示キットは、世田谷ゆかりの詩人・萩原朔太郎を展覧会と連動して制作した。また、「世田谷の書展」を従来の展示方式から変更し、子どもたちに書の魅力を伝えるために、学校等で展示できるバナーの制作を試みた（公開は令和5年度）。

ワークショップは対面式のプログラムが復活し、日本女子体育大学ダンス・プロデュース研究部と連携した「ことばとからだ」ワークショップは、久々に講師の大学生と参加した子どもたちの明るい笑顔が館内に広がった。芦花小学校と行う「もっと朗読を楽しもう」も、児童たちがよく知る、現在活躍中の俳優二人を講師に迎え、思い出に残る貴重な体験となったとの感想を多く得た。

一方、コロナ禍の経験から積極的に始めたオンラインによる講座も実施した。Zoom ウェビナーを活用し、「萩原朔太郎展」を記念して「喪失と郷愁－萩原朔太郎と世界の旅人」（講師：エリス俊子）を開催した。

さらに令和4年度は「萩原朔太郎展」を記念して、池之上青少年交流センターと共催で事前にワークショップを実施し、朔太郎の作品にちなんだ絵を描いてフラッグを制作、会期中に下北沢駅周辺の下各商店街で掲出した。今後も区内のさまざまな地域と連携した活動を積極的に行っていく。

公1-6「文化芸術の活性化を図るための情報提供」

資料関連の情報は、ホームページでの映画監督「成瀬巳喜男関連資料」の公開が加わった。まもなく開館30周年を迎える当館が管理する文学資料は、今後の文学・文化史研究においても、地域の歴史を知る資料としても重要な資料であることは間違いない。特に現代文学の資料は調査研究がこれから本格的に行われることが予想され、研究発展のためにも、所蔵先の責任として計画的に公開していく。

世田谷文学館が「セタブン」の愛称で呼ばれるようになり、SNS 上でもその名が定着し、当館に関連する検索ワードのひとつとなった。ある企画展がきっかけで初めて訪れた来館者に、その後の「セタブン」の活動にも注目してもらえるような情報やコンテンツを継続して発信していることも功を奏している。

また、昨年からは開始した「ほんとわラジオ」も多彩なゲストが出演し、「セタブン」ならではの「耳で聴く文学」として定着してきた。加えて、「ほんとわ」発の「朗読」コンテンツ制作にも取り組み、YouTube 配信も開始した。

さまざまな媒体から「セタブン」が発信する〈文学〉を伝えることは、今後ますます重要となる。利用者にとって便利で、充実した情報発信を今後も展開していく。

2. 事業実績

(1) 世田谷文化的生活情報センター 生活工房

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
デザイン・ アートの展 示	【生活工房ギャラリー2022】	地域の暮らしから異文化理解まで、幅広いテーマの展示事業を、生活工房ギャラリーで実施。関連してトークイベントやワークショップも開催。					
	シュー・ウィンドウ 靴を紐とく 展覧会	クツ創家／くつクリエイターの靴郎堂本店による「履けないクツ」の展覧会。会期中、テープと新聞紙でできたクツを来場者とともに制作し、会場で順次陳列。その数は153足にもなった。あわせて、本物のクツのつくり方も紹介した。	7月19日～ 10月16日	無料	15,447	5,000	生活工房ギャラ リー
		公開収録！ 靴を紐トーク 出演：佐藤いちろう(靴郎堂本店／くつクリエイター) 大谷知子(靴ジャーナリスト)、城一生(靴業界ジャーナリスト)	9月24日	無料	PV数 114	—	オンライン
	岡本仁の編集とそれにまつ わる何やかや。	マガジンハウスで長らく雑誌編集に携わってきた岡本仁氏のものの見方・考 え方に触れることで、「編集」という行為をより身近なものとしてとらえることを意 図した展覧会。企画の一環として岡本氏の編集によるタブロイド冊子を生活工 房より刊行し、階下のTSUTAYAにて会期中販売した(他書店での販売と合 わせ、1,000部完売)。また、岡本氏による展示解説ムービーを制作し、生活工 房YouTubeチャンネルにて期間限定で公開した。	10月29日～ 2023年1月22日	無料	14,116	5,000	生活工房ギャラ リー
		ゲスト・トーク1(対談) 出演：若木信吾(写真家／映像作家)、岡本仁	11月27日	1,000	79	—	セミナールーム
		ゲスト・トーク2(対談) 出演：田島朗(『BRUTUS』編集長)、岡本仁	12月11日	1,000	66	—	セミナールーム
	続・セタガヤママ展 小さな メディアの40年	1982年に世田谷区桜丘にオープンした雑貨店「セタガヤママ」を中心に紹介 した展覧会。平野甲賀がプリントゴッコで手がけたお知らせや、40年以上ガリ 版で発行を続けている『あめの会通信』『あめつうしん』といったミニコミ誌、微 弱電波を活用したミニFMなど、小さなメディアの活動を辿った。	2023年1月31日～ (4月23日)	無料	17,156 (総計： 31,732)	5,000	生活工房ギャラ リー
		おはなしとおにぎょう はじめてのともだち 出演：横山てんこ(美術家／人形遣い／俳優) (2回上演)	2023年2月4日	500	121	—	セミナールーム
		お面づくりワークショップ 講師：佐々木未来(イラストレーター／グラフィックデザイナー)	2023年3月21日	500	9	—	ワークショップ ルームA
	生活工房アレコレ2022 (生活工房常設展示)	生活工房で実施した展覧会やワークショップを記録した写真、映像、資料など を公開し、閲覧できる可動的なコーナーで紹介。本年度は、穴アーカイブで収 集・デジタル化した、区民提供の8ミリフィルムを月替わりで計12巻紹介。あわ せて、来場者からも感想やエピソードを募り、公開した。	通年	無料	72,030	2,000	生活工房ギャラ リー

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
デザイン・ アートの展 示	【提携展示】	他の施設や団体等との連携により企画展を開催する。施設利用の活性化を図るとともに、「生活デザイン」に関する多様な事業を展開する。					
	世田谷パブリックシアター 開場25周年記念ポスター展	開場25周年を迎えた世田谷パブリックシアターの歩みを、約90点のポスターで振り返るとともに、世田谷文化生活情報センター開館時の広報誌や、計画概要パンフレットなども一部紹介し、センター全体の歩みも回顧した。(提携:世田谷パブリックシアター)	4月27日～ 5月25日	無料	8,254	1,000	生活工房ギャラ リー
	大竹英洋写真展 ノースウッズ 生命を与える 大地	アメリカとカナダの国境付近から北極圏にかけて広がる湖水地方ノースウッズを、20年に渡り取材してきた大竹英洋の写真展。世界最大の原生林の一つでもある同地で撮影した写真を、世田谷文学館の「移動文学館」展示パネルによって紹介した。(提携:世田谷文学館)	6月4日～7月10日	無料	6,655	1,000	生活工房ギャラ リー
ワーク ショップ・ 講座	【セミナー・ワークショップシ リーズ2022】	新たな視点から生活を見つめ、学びや気づきをもたらすセミナー・ワークショ ップのシリーズ。 誰にでも開かれた行為である「対話」。予想外の新しい視点を得たり、自分の 信念に変化が起こるなど、対話が人々にもたらす効能について多様なアプロ ーチの実践者とともに学び・体験するセミナーを開催した。また、全4回分の記録 動画をウェブサイトで公開した。 ①「哲学対話」 講師:河野哲也(哲学者) ②「オープンダイアログ」 講師:斎藤環(精神科医) ③「回復共同体」(映画『プリズン・サークル』上映 / 講師:毛利真弓(臨床 心理士)) ④「まあたらしさに出会うとき」 講師:伊藤亜紗(美学者)、濱口竜介(映画 監督)	2023年 ①2月19日 ②2月23日 ③3月4日 ④3月19日	①②2,000 ③3,000 ④2,000 ①②講演のみ ③上映のみ 1,000	474	250	ワークショップ ルームAB
	【穴アーカイブ2022】	世田谷区民から募った8ミリフィルムのアーカイブ事業。現在、これまでにデジ タル化した映像をウェブサイト「世田谷クロニクル」で公開している。美術館や福 祉施設への貸出・活用のほか、定期上映会や常設展示でも紹介。映像から想 起した個々人の記憶を収集・公開している。	通年	無料	PV数 18,057回	PV数 3,000回	オンライン
	せたがやアカカブの会	8ミリフィルムの定期上映会。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、手 紙によるリモート開催を行ってきたが、3年ぶりに対面とリモートで実施。20代 から80代までが映像を囲み、当時の記憶や気づいたことを語り合った。年4回 開催。	6月19日、9月17日 2023年 1月21日、3月18日	無料	70	30	セミナールーム ワークショップ ルームA オンライン
	エトセトラの時間 見えるも のと見えないものを語る会	視覚障害者と一緒に8ミリフィルムを鑑賞するプログラム。劇映画やドラマとは 異なり、視覚障害者にとって筋のないホームムービーを見る経験は乏しい。今 年度は3回実施し、聴覚障害者の参加もあった。ワークショップの音声記録はオ ンラインで公開した。	10月10日 11月23日 12月17日	無料	21	20	オンライン

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
ワーク ショップ・ 講座	GAYA(アウトリーチ)	東京都、アーツカウンシル東京、NPO法人remoと4者で共催し、「世田谷ク ロニクル」の映像を「みる」「はなす」「きく」オンライン・ワークショップを実施。さ らに、区内の訪問看護施設で働く写真家とデザインリサーチャーと協働して、福 祉の現場でも実際に活用、可能性を探った。	通年 (オンライン・ワーク ショップ:7月24日 8月28日、9月25日 10月23日、11月27 日、12月25日 2023年1月22日)	無料	57	30	オンライン他
	朗読講座「豊かなことばの世界」	〈共催先の都合により中止〉 文学作品の朗読を通じて「ことば」のもつ力や自分自身の表現力の向上、朗 読活動の一助となる機会を提供する。(提携:NHK放送研修センター)	—	—	—	240	セミナールーム
子どもワー クショップ	【子どもワークショップ 2022】	幼児から中高生、さらに若年層を対象に、デザインやコミュニケーションの体 験などを通して、創造性を育む機会を創出する。	①7月30日 ②7月31日 ③8月6日 ④8月7日	1,000	46	60	セミナールーム
	「シュー・ウィンドウ 靴を紐と く展覧会」関連ワークショップ	【週末ワークショップ】 展示会場で実施したワークショップ。計153足のクツを来場者が制作した。 講師:佐藤いちょう	7月23日、24日 8月20日、21日 27日、28日 9月3日、4日 10日、11日、17日 23日、24日、25日 10月1日、2日 8日、9日	無料	140	—	生活工房ギャラ リー
	おはなしいっぱい ＜オンライン開催＞	幼児から大人まで楽しめる朗読、素話、パネルシアターなど、区内30団体を ネットワークする「世田谷おはなしネットワーク」によるお話をオンラインで開 催。活動団体のネットワーク構築と活性化を支援した。	8月24日～26日	無料	オンライン 1,131	オンライン 1,460	セミナールーム オンライン
	若年層向けセミナー どう？就活 自分と仕事の出会い方 Vol.2	若年層を対象に、働くとはどういうことか、何のために働くのか？新時代の多 様な「働き方や生き方」について、働き方研究家やゲストとともに学ぶセミナーの 第2弾。 「働くってどういうこと？」と考える学生さんや「いい仕事との出会い方」を模索 中の大人たちに向けた、2日間のトークプログラム。働き方研究家の西村佳哲さ んやゲストの方々と、「働く」ことや「会社」について考えた。(2回) 出演:今井紀明(認定NPO法人D×P理事長)、さこうもみ(社会起業家) 吉倉理紗子・白石宏子・玉置純子・青木佑子(株式会社スティルウォーター) 松山剛己(松山油脂株式会社・株式会社マークスアンドウェブ代表取締役 社長)	①12月3日 ②12月4日	各日 1,000	92	100	セミナールーム
人材育成 プログラム	インターン生の受け入れ	近隣大学からインターン生を受け入れ、コミュニティや交流について事業の現 場を体験する場を提供した。(2回)	8月、2023年2月	—	4	2	—

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
生活工房 広報	生活工房ウェブサイトの運営・SNS配信	生活工場の施設案内、事業予定、募集情報、関連ブログなどを掲載し、情報を発信する。SNS(Twitter、Facebook Page、Instagram)と併せ、効果的に広報を展開した。また一部事業でWEB広告を試行した。	通年	—	—	—	—
	イベント情報紙の編集・発行	生活工房プログラムのスケジュール、事業内容を紹介する情報紙「季刊生活」を発行した。	4月、7月、10月 2023年1月発行	—	各10,000部	—	—
	生活工房「アニュアルレポート2022」の編集・発行	年間のプログラムを記録した報告書。生活工場の活動を視覚的にわかりやすく紹介する冊子を発行した。(1回)	2023年5月発行 予定	—	1,500冊	1,500冊	—
国際交流・異文化理解の推進	大竹英洋写真展 ノースウッズ 生命を与える大地(再掲)	アメリカとカナダの国境付近から北極圏にかけて広がる湖水地方ノースウッズを、20年に渡り取材してきた大竹英洋の写真展。世界最大の原生林の一つでもある同地で撮影した写真を、世田谷文学館の「移動文学館」展示パネルによって紹介した。(提携:世田谷文学館)	6月4日～7月10日	無料	6,655	1,000	生活工房ギャラリー
市民活動 支援	世田谷アートフリマ2022	前年度に引き続き新型コロナウイルスの影響により開催内容を変更し、世田谷アートフリマゆかりの作家による子ども向けのワークショップを開催した。 ①「シルクスクリーン印刷で世界に一枚だけのギャザーバッグをつくろう」 講師:TReCland2 [とれっくわん あんど つー](旅するクリエイター) ②「自分だけのキャンドルホルダーをつくろう」 講師:asami(キャンドルアーティスト)	①8月20日 ②8月21日	1,000	33	1,000	セミナールーム
	市民活動支援コーナーの運営	世田谷区内で活動する市民活動団体の支援を目的に、打合せスペース、プリントアウトスペースなどの場を提供。コーナーの運営は市民活動団体に委託。	通年	—	7,782	7,000	市民活動支援コーナー
	【市民活動団体支援事業】 世田谷市民活動 知って得SDGs講座	市民活動支援コーナーをベースに、市民活動の活性化を図るための事業を実施。 SDGs(持続可能な開発目標)について、自分たちの暮らしにどのような意味があるのか、市民活動とどのような関係があるのか、市民活動支援コーナーを利用している団体を対象にセミナーを行った。(3回)	12月21日、2023年 1月28日、2月3日	無料	12	—	市民活動支援コーナー
	ちかくのとーく	世田谷区内のソーシャルグッドに貢献する活動に取り組む団体、個人を招いて開催するトークシリーズ。対面とオンラインのハイブリッドで実施。今年度は地域別に3本を開催した。子育て、演劇ワークショップ、環境など、さまざまな取り組みを紹介した。 聞き手:市川徹(まちづくりコーディネーター) 記録:千葉晋也(まちづくりデザイナー) ①「下北沢のおせっかいとまちつどい」 出演:柏雅康(しもきた商店街振興組合理事長)、斎藤淳子(一般社団法人北沢おせっかいクラブ代表理事) ②「三茶で語る、住民参加と演劇のこと」 出演:松井憲太郎(演劇評論家) 花崎攝(シアター・プラクティショナー) ③「二子玉川の、持続可能なコミュニティ」 出演:小林直子(二子玉川まちメディアfutakoloco編集長)、中村輝之(玉川町会事務局長)	①7月3日 ②11月13日 ③2023年2月19日	200 ※オンラインは無料	会場 36 オンライン 52	30	市民活動支援コーナー セミナールーム

(2) 世田谷文化生活情報センター 世田谷パブリックシアター

20

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
国内演劇 創作事業	倉持裕 作・演出作品 『お勢、断行』	【原案】江戸川乱歩 【作・演出】倉持裕 【出演】倉科カナ、福本莉子 他 主催事業「現代能楽集」シリーズや「お勢登場」の公演で世田谷パブリックシアターと縁の深い劇作家・演出家の倉持裕は、2004年の岸田戯曲賞受賞以降、テレビ、映画など多様なメディアで活躍する独特の切り口で世界を切り取る個性を放ちながら、不可思議な魅力をもつ演劇人として、演劇界の中核を担う存在に飛躍している。その倉持裕が江戸川乱歩の迷宮世界を舞台作品として創作、2020年に新型コロナウイルス感染拡大防止のため、公演中止となった作品をブラッシュアップし上演した。(15回)	5月11日～5月24日	7,500～ 2,750	7,556	6,825	パブリックシアター
		【兵庫公演】兵庫県立芸術文化センター(3回)	5月28日、29日	7,500～ 5,500	2,163	—	阪急中ホール
		【愛知公演】春日井市民会館(2回)	6月4日、5日	7,000～500	1,372	—	春日井市民会館
		【長野公演】まつもと市民芸術館	6月12日	6,000～ 3,000	980	—	主ホール
		【福岡公演】福岡市民会館	6月16日	9,500～ 5,000	1,018	—	大ホール
		【島根公演】島根県民会館	6月19日	7,800～ 6,800	1,150	—	大ホール
	五戸真理枝演出作品 トラム、二人芝居 『毛皮のヴィーナス』	【作】デヴィッド・アイヴズ 【演出】五戸真理枝 【出演】高岡早紀、溝端淳平 次世代の演劇人育成の一環として、若手演出者・五戸真理枝にシアタートラム公演「トラム、二人芝居『毛皮のヴィーナス』」演出を委嘱し上演した。若手ながら巧みな人間洞察への手腕が光るのが特徴的な演出で、幅広い年齢層の観客へ向けて刺激的で訴求力をもった演劇を立ち上げ、高岡早紀と溝端淳平の濃密なやりとりをはじめ、ライブな舞台の面白さを伝えることで、観客育成にもつながっていくことができた。その結果、本作を含む演出で読売演劇大賞の最優秀演出家賞を受賞した。スタッフを含め各セクションが初登板の演出者を守り立てながら自身の可能性も迫及しつつ、実験的なクリエイションを重ね、クオリティの高い作品作りに挑戦できた現場となった。(16回) 受賞：読売演劇大賞最優秀演出家賞／五戸真理枝 読売演劇大賞優秀スタッフ賞／長田佳代子(美術)	8月20日～9月4日	7,000～ 3,150	3,383	2,306	シアタートラム
	りゅーとびあ×世田谷パブリックシアター 『住所まちがい』	【作】ルイーゼ・ルナーリ 【上演台本・演出】白井晃 【出演】仲村トオル、田中哲司、渡辺いっけい 他 ミラノ・ピッコロ座の座付作家、ルイーゼ・ルナーリの上質な喜劇を、世田谷パブリックシアターの新芸術監督、白井晃が登場人物を日本人に翻案し、上演した。りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館との共同主催事業で、公共劇場間のネットワーク形成・深化にも資する事業となった。(12回)	9月26日～10月9日	7,500～ 2,750	6,169	3,780	パブリックシアター

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
国内演劇 創作事業	栗山民也演出作品 『夏の砂の上』	【作】松田正隆 【演出】栗山民也 【出演】田中圭、西田尚美、山田杏奈 他 「薮原検校」「シャンハイムーン」「チャイメラ」「殺意」「彼女を笑う人がいて も」などの主催公演において、成果を上げてきた演劇界のトップランナー栗山民 也が、1998年に初演、第50回読売文学賞(1998年)を受賞した松田正隆の 代表作「夏の砂の上」を現在によりがえらせ、上演した。現代日本社会に響くド ラマを生み出し、世田谷パブリックシアターならではの優れた舞台芸術作品を 発信した。(24回)	11月3日～20日	8,500～ 3,250	12,500	9,570	パブリックシア ター
		【兵庫公演】兵庫県立芸術文化センター(3回)	11月26日、27日	8,500	2,280	—	阪急中ホール
		【宮崎公演】メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)(2回)	12月3日、4日	7,000～ 2,000	1,659	—	演劇ホール
		【愛知公演】刈谷市総合文化センター(3回)	12月10日、11日	8,800～ 4,500	3,590	—	大ホール
		【長野公演】まつもと市民芸術館(2回)	12月16日、17日	6,500～ 3,000	1,959	—	主ホール
	生田みゆき演出作品 トラム、二人芝居 『建築家とアッシリア皇帝』	【作】フェルナンド・アラバール 【上演台本・演出】生田みゆき 【出演】岡本健一、成河 1960年代の演劇界に大きな影響を与えたフランスの劇作家アラバールの代 表作『建築家とアッシリア皇帝』を、若手演出家として注目の生田みゆきが、俳 優のフィジカルな側面も活かしながら、「これこそ二人芝居の決定版」ともいう べき舞台を演出した。岡本健一と成河のフィジカルを伴う傑出した演技力、ま た、堀尾幸男の全面段ボールの美術も話題となるなど、各セクションの総合力 を結集し、生田の初のシアタートラム演出作品を支えることで、次世代の舞台 人の育成にもつながる公演となった。(19回) 受賞：紀伊國屋演劇賞個人賞／成河(俳優)	11月21日～ 12月11日	7,000～ 3,150	4,382	3,000	シアタートラム
	野村萬斎演出作品 『ハムレット』	【作】W・シェイクスピア 【翻訳】河合祥一郎 【構成・演出】野村萬斎 【出演】野村裕基、岡本圭人、藤間爽子、村田雄浩、河原崎國太郎、若村麻由 美、野村萬斎 他 2002年から20年にわたり芸術監督の役割を務めてきた狂言師・野村萬斎 が、自身の出自である古典芸能「狂言」の特質を活かしながら、古典と現代劇 を融合した新たな解釈で作品を創造し上演した。また、共演と演出を通して、次 世代の演劇人の育成にも貢献し、公共劇場ならではの質の高い企画として広範 囲な観客へ訴求力を持った公演となった。(15回)	2023年 3月6日～19日	9,500～ 2,250	7,261	5,502	パブリックシア ター
		【江戸川公演】江戸川区総合文化センター	2023年3月25日	8,000～ 4,500	1,310	—	大ホール
		【枚方公演】枚方市総合文化芸術センター	2023年3月29日	8,500	1,066	—	大ホール

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
子どもプロジェクト	せたがやこどもプロジェクト 2022 夏の劇場・りんかん学校 『流星スプーン』	〈新型コロナウイルスの影響により事業規模の変更〉 白井晃芸術監督による体験型の新企画。劇場で一つの作品を公募で集まった子どもたちがプロのアーティストらとともに、演技や舞台美術・音響・照明など舞台作品における様々な創造過程を体験しながら、作品づくりを行った。これまで劇場の公演やワークショップに参加したことがある人にとっては新たな劇場の側面を知るきっかけに、劇場に訪れたことがない人にとっては劇場について知ることで、劇場をより身近に感じていただき、劇場への愛着・舞台芸術への関心を育むきっかけとなった。(リハーサル3回、舞台稽古1回、発表会1回)	7月26日～8月4日	無料	参加者 延52 発表見学者 82	500	パブリックシアター
	せたがやこどもプロジェクト 2022 「せたがや夏いちらくご」	古典落語を扱いつつも現代の風刺を取り入れ大胆アレンジする作風と、とっつきやすい語り口で幅広い年齢層から多くの支持を集める春風亭一之輔がプロデュース。昼はこども・親子に向けた入門編、夜は落語ファンに向けた公演として、昼夜で異なる出演者・内容によるオリジナリティーある公演を実施。寄席芸能をより身近に感じることができ、テレビ等以外ではなかなか接する機会のない、伝統的・本格的な大衆演芸の面白さ、話芸のすばらしさを幅広い年齢層の観客に楽しんでいただく公演となった。(2回)	7月30日	4,000～ 1,500	延836	800	パブリックシアター
	せたがやこどもプロジェクト 2022 子どもとおとなのための◎読み聞かせ「お話の森」	舞台上に絵本を大きくスクリーンに映し、アーティストが選りすぐりの絵本を手に読み聞かせを行った。音楽や演奏、トークもまじえ、劇場での楽しい一日を演出。またロビーでは「お話の森」専用の飾りつけをして観客を迎え、終演後は子どもたちに水風船のプレゼント、読んだ絵本の販売もおこない、コロナ禍以前のようなにぎわいが戻った。はじめて劇場へ来る人も来たことがない人も、そして子どもとおとなが一緒に、舞台と一体になって楽しむことができ、充実したプログラムとなった。(7月30日:ROLLY、7月31日:片桐仁、計4回)	7月30日、31日	3,500～500	937	900	シアタートラム
ダンス公演	ダンス提携公演／育成	気鋭の若手カンパニーからベテランまで、選りすぐりのダンスカンパニーと提携し、現代演劇と舞踊を専門として上演する劇場のレパートリーの多様性を創出した。創作活動を支援しながら、演劇的な要素や、音楽、美術など、異なるジャンルのアートとの出会いを提案し、世田谷でしか生まれ得ない新しい舞台芸術の創造を目指した。 ・イデビアン・クルー ・スズキ拓郎 ・スズキユキオプロジェクト ・大駱駝艦 ・lal banshees ・Noism ・関かおり ・田村一行	通年	9,400～ 1,000	4,567	5,200	パブリックシアター/シアタートラム

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
提携公演	演劇提携公演	気鋭の若手から長年の実績を誇るカンパニーまで、優れた演劇作品の上演実績がある劇団・ユニット・制作会社・団体等と提携し制作的な補助、広報宣伝協力等を行った。 ・shelf ・ハイバイ ・シス・カンパニー ・こんにやく座	通年	11,000～1,500	42,507	25,000	パブリックシアター/シアタートラム
コミュニティプログラム	劇場での演劇ワークショップ	地域の人々が気軽に参加できるプログラムから、深く取り組むことのできるプログラムまで、多様な内容のワークショップを実施した。 (1)「単発ワークショップ」1～2日単位で気軽に演劇や劇場を体験できるワークショップ。(「デイ・イン・ザ・シアター」)	4月5日～ 2023年3月27日	500	302	512	稽古場他
		(2)「テーマ別ワークショップ」地域の課題等に演劇的手法を活用してアプローチしたり、劇場へのアクセスが阻まれている対象を設定して実施するワークショップ。今年度は「障害」をテーマに企画した。(「介助と障害を巡る旅～ゆうじさんちシアター」)	5月28日、29日	1,500			
	子どものためのワークショップ	子どもを対象に、演劇ワークショップを実施した。 (1)「夏休みワークショップ」学校の長期休暇に合わせたワークショップ。(14企画、3日間)	7月21日～ 8月29日	1,500	1,040	620	稽古場他
		(2)『世田谷パブリックシアター中学生演劇部』演劇づくりに取り組みたい中学生を対象に、1年を通してワークショップを企画。2学期には、世田谷区立中学校演劇発表会で発表することを前提としたワークショップを実施した。(3企画、19日間)	6月19日～ 2023年3月21日	8,000～500			
		(3)その他単発ワークショップ『ごちゃまぜ演劇ワークショップ』学齢で区切らないワークショップとし、子どもたちが年齢の違うグループと作業する機会を提供した。(5企画、5日間)	11月23日～ 2023年3月29日	500			
	地域の物語	区民を中心とした参加者たちが、現代社会が抱える課題から考えられるテーマをもとに自分たちの住む社会・暮らし・地域について思考するワークショップを3か月をかけて実施、最後には、作品としてまとめあげ、シアタートラムにて広く地域の観客に向けて上演する企画。本年度は「看取り」をテーマに、「えんげきコース」「からだコース」の2コースを設定して実施した。(通年ワークショップ2コース28回、発表会1回開催)	通年	WS:9,000～7,000 発表会:無料	参加者 延385 発表会 181	参加者 320 発表会 250	稽古場/シアタートラム他

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
学校とその他区内施設との連携プログラム	学校のためのワークショップ	世田谷区内の小中学校の児童・生徒・教員を対象に、以下の3つの事業を実施した。 (1)『ワークショップ巡回団』:進行役やアーティストが学校へ出向き、演劇的手法を用いた演劇ワークショップを実施した。教科の学びに活かしていくために、内容は教員と相談をしながら決定。中心は教科「日本語」の支援となる。(164回) (2)『先生のためのワークショップ』:小中学校の教員が授業で活用するためのヒントとなるワークショップや事業報告会を年間を通じて劇場内外で実施した。(4回) (3)『ともにやの部屋～黒田真史さん～』:18歳で交通事故にあい、高次脳機能障害でケアセンターふらっとに通う黒田さんのライフストーリーを描いた劇。(5回)	6月8日～ 2023年3月7日 6月8日～ 11月27日 12月8日～ 2023年2月8日	無料	5,461	8,135	世田谷区内の各小中学校/稽古場
	中学校演劇部支援	世田谷区立中学校教育研究会演劇教育研究部と連携し、区立中学校演劇部の活動支援を行った。(事前支援含め6日間)	10月17日～30日	—	150	150	世田谷区内各小中学校/区民会館他
	区内施設連携プログラム	非営利の区内施設/団体(児童館、障害者支援施設、病院、集合住宅等)に進行役を派遣して、演劇的手法を用いたワークショップや参加型作品を、当該施設/団体と協働して施設利用者及び近隣住民に提供する企画。本年度は、前年度より引き続き、障害当事者や高齢者をサポートする福祉事業所や社会福祉協議会などと連携していくことに焦点をあて、アートフェスティバル『極楽フェス'22』や『社会福祉協議会×大学生ボランティア』を実施した。(4企画、26日間)	4月23日～ 2023年2月20日	42,000～ 無料	延746	200	世田谷区内の施設/稽古場
	小学校古典芸能鑑賞教室 [区受託]	世田谷区立の小学校(全校)6年生を対象に、各学校体育館にて狂言ワークショップを実施。6月～7月にかけて全28回を実施する予定であったが、猛暑による熱中症対策のため、一部冬の時期に開催。能狂言の発想や技能を体感し、日本固有の伝統芸能について関心を高める機会を提供した。(28回)	6月6日～12月5日	—	延6,100	6,000	世田谷区内 小学校体育館
	移動劇場「@ホーム公演」	〈新型コロナウイルスの影響により実施回数変更〉 劇場へなかなか足を運ぶことのできない、お年寄りや障害者が生活する場所へ、劇場から演劇を運んで上演する企画。新型コロナウイルスの影響により施設へうかがうのは3年ぶりとなり、安心・安全に見えていただけるよう、コンパクトな公演『ちょこっとチャーリー』を実施。「久しぶりに利用者さんたちの楽しそうな表情が見られてうれしかった」など好評を得ることができた。また、6月の公演後にDVD作品も作り、「おたのしみDVD」としてまだ公演を再開できない施設にも無料配付して鑑賞していただいた。(7施設9回、DVD配付施設:17箇所)	6月8日～22日	無料	延300 DVD鑑賞 延450	600	区内特別養護老人ホーム、デイサービス、障害者施設

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
研究育成 プログラム	観客育成プログラム	地域住民及び観客を対象に、主催公演関連のワークショップや作品の分析・舞台芸術についての知識を深める企画を実施した。					25
		(1)『世田谷パブリックシアターダンス食堂』:現役のダンサーを招き、その理念やメソッドに触れるワークショップ及びトーク(4回)	10月7日～ 2023年3月26日	500	174	110	セミナールーム 他
		(2)『舞台芸術のクリティック』:舞台芸術に対し批評的な視点を獲得し、その視野を広げるレクチャー及びゼミ(5回)	11月6日～ 2023年2月19日	4,000			セミナールーム 他
	専門家育成プログラム	演劇ワークショップに興味のある大学生や進行役、研究者を対象に、人材育成を目的とした「SPTラボラトリー」を実施した。誰もが参加できる【オープンラボ】と、公募で集まった研究員のための【定例会・MTG】【ゼミ】【レクチャー】【自主企画】からなる。(12企画、70回)	4月9日～ 2023年3月25日	2,000～無料	985	330	パブリックシアター/シアタートラム/稽古場/セミナールーム他
	芸術監督対談企画	芸術監督がホスト役となり、多彩なゲストを招き、お互いの専門分野を駆使しながら、共通する必要不可欠なもの＝「表現の本質」を探っていく企画。舞台を「観る」に留まらず、より深く舞台芸術を楽しみたいと願っているお客様に向けて、その真髄を発信することを目指し実施した。					
		(1)公共劇場における芸術監督の役割を考える	4月19日	無料	556	500	パブリックシアター
		(2)ロベール・ルパージュと考える舞台芸術の未来と可能性	2023年3月27日	無料	184	200	シアタートラム
舞台技術 者人材育 成プログラ ム	Technical Theatre Training Program 舞台技術講座	次世代を担う舞台技術者やプランナー、デザイナーを対象に、舞台・照明・音響各分野で未経験者及び経験者向けの安全講座、各分野別プログラムを入門編、安全セミナー編など分け、多彩なプログラムで実施した。(4講座)					
		(1)舞台音響入門講座	8月18日	3,000～ 1,500	32	250	パブリックシアター/シアタートラム
		(2)舞台照明入門講座	8月19日		37		
		(3)舞台技術安全講座	8月20日、21日		延64		
		(4)安全セミナー『舞台芸術を志す若者たちへーシアタートラムの見学と劇場作業の体験ー』	2023年1月29日	500	69		
	舞台技術支援	劇場使用者等に対して、設備等の使用講習会を実施するとともに、プラン・オペレートや機材等の支援を行った。	通年	—	—	—	—

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
区民の表現の場の提供	フリーステージ	世田谷区民を中心とした、音楽やダンスなどの文化活動を行なっている団体から出演団体の公募を行い、各団体と劇場スタッフが協力し、事前の打ち合わせやリハーサルなどの作業を重ね、世田谷パブリックシアター(ダンス部門)とシアタートラム(音楽部門)にて、それぞれ日ごろの成果を発表した。 また、新型コロナウイルス対策として、リハーサル・本番の開催日時を分散させ、1日あたりの参加者数や「密」にならないよう来場者数をおさえるなどの工夫を行った。(3部門5日間5回)	4月29日～5月5日	—	延1,510	2,200	パブリックシアター/シアタートラム
	シアタートラム・ネクストジェネレーションvol.14 安住の地 第8回本公演『風げ、いきのこりら』	2008年度より実施されてきた世田谷パブリックシアターによる、若い才能の発掘と育成を目的とした事業「シアタートラム ネクスト・ジェネレーション」を創作形態に合わせバージョンアップして実施。京都の劇団「安住の地」公募で選出され上演した。団体にとって、はじめての作品規模であったが、劇場スタッフが協働し作品上演のノウハウを共有することで、はじめての東京での公演を滞りなく実施することができた。(5回)	12月16日～18日	3,500～1,750	733	1,240	シアタートラム
地域活性のための文化芸術事業	世田谷アートタウン2022『三茶de大道芸』	感染対策により、2019年までの開催内容より規模縮小となったが、3年ぶりに屋外でのパフォーマンスを開催。三軒茶屋の街を舞台に、商店街の各所で大道芸のパフォーマンスなどを行い賑わった。三軒茶屋の活性化と地域の文化向上を図るため、地元商店街との実行委員会方式により実施した。2日間開催。(文生センター全体事業)	10月15日、16日	—	100,500	200,000	三軒茶屋駅周辺 商店街他
劇場広報	劇場営業広報宣伝	営業・広報宣伝活動を通じて世田谷パブリックシアターの事業を世田谷区内外に広く周知した。地域の劇場/創造発信型劇場としての当劇場の存在意義を高めるブランディング活動として各種メディアへの情報提供、ホームページや広報誌などによる情報発信を行い、主催事業への集客を図り財団の収益性の向上に資する営業活動を行った。	通年	—	—	—	—
	学芸共通広報宣伝	ワークショップ・レクチャー等の学芸事業を普及するため、紙媒体による広報物ならびにホームページ(オンライン)での宣伝を中心に展開した。	通年	無料	—	—	—
	劇場雑誌の発行	各事業の成果を記載したアニュアルレポートを劇場雑誌として編集・発行した。2022年度は2021年度の事業を報告するための冊子を作成した。その他、必要に応じて事業ごとの活動を分析、記録、周知する劇場雑誌を編集・発行した。	通年	無料	400部	400部	—

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
海外招聘・ 国際共同 制作	世田谷アートタウン2022 海外招聘公演 カンパニーXY with ラシッ ド・ウランタン『Möbius／メ ビウス』	〈新型コロナウイルスの影響によりワークショップを中止〉 フランスで人気を集め、2017年の来日公演でも話題となった現代サーカス カンパニーXYを招聘し、最新作の『メビウス』を上演。オリンピックの体操強化 選手なども参加したアクロバットを中心とした演技に、日本でも人気の高いラ シッド・ウランタン振付によるダンスの要素も取り入れ、ダイナミックかつ美しい パフォーマンスを披露した。(3回)	10月21日～23日	4,000～ 2,000	1,090	900	パブリックシア ター
		【愛知公演】愛知県芸術劇場(3日間公演2回、ワークショップ1回)	10月25日～28日	7,000～ 1,500	1,461 (内、公演 1450/ WS11)	—	大ホール他
		【京都公演】ロームシアター京都(3日間公演2回、屋外パフォーマンス1回、ワー クショップ1回)	10月30日～ 11月3日	4,000～ 1,000	1,505 (内、公演 783/屋外 パフォーマン ス700/ WS22)	—	サウスホール他
	海外招聘ダンス ピーピング・トム『マザー』	世田谷パブリックシアターが初めて日本に紹介し衝撃を与えた、国際的に人 気の高いベルギー出身のダンスカンパニー、ピーピング・トムの新作公演。 並外れた身体能力を持つダンサーの他、俳優、画家、オペラ歌手など、国籍も キャリアも多様なカンパニーメンバーとともに、一般公募による地域の高齢者、 青少年が特別キャストとして参加し、地域性の高い新感覚のダンスパフォー マンスを行った。なお、本公演は2020年に新型コロナウイルス感染拡大防止の ため、公演中止となった作品である。(3回)	2023年 2月6日～8日	6,000～ 2,000	1,717	1,350	パブリックシア ター
		【兵庫公演】兵庫県立芸術文化センター	2023年2月12日	3,000～ 2,000	746	—	阪急中ホール
		【高知公演】高知県立美術館	2023年2月18日	3,500～ 1,500	375	—	高知県立美術館 ホール
		【愛知公演】穂の国とよはし芸術劇場PLAT	2023年2月23日	4,000～ 1,000	408	—	主ホール

(3) 世田谷文化生活情報センター 音楽事業部(せたおん)

28

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
身近に親しむ演奏会	せたがやジュニアオーケストラ オータムコンサート	せたがやジュニアオーケストラの練習の成果を披露した。全体合奏をできる会場がないため、アンサンブル演奏形式の発表となっているが、レベルの底上げにつながった。作曲家に直接指導してもらう機会を得て、曲に対する向き合い方を学ぶことができた。	10月30日	500	347	250	烏山区民会館
	室内楽シリーズ	内外で活躍する演奏家による室内楽の演奏会を2回開催。 (1)ハラダ タカシ「オンド・マルトノ 宇宙からの響き」 公演前に、この珍しい楽器の第一人者である出演者自身による「講座」を開催。公演自体も、バラエティある選曲で、楽器のすばらしさを、様々な形で感じられるものとなった。	7月2日	公演&講座 6,000～ 5,500 公演4,000～ 3,800 講座3,000～ 2,800	公演 177 講座 48	420	北沢タウンホール
		(2)三船優子&堀越彰「ピアノとドラムの響演」 クラシック音楽では大変珍しい組み合わせ。名曲の魅力が新たに広がるような印象に残る公演となった。本公演に先駆け、子どものために夏休みに開催したワークショップも、魅力を身近に体験する良い機会になった。	11月3日 (ワークショップ: 7月28日)	公演4,000～ 3,600 ワークショップ 900	公演 219 ワークショッ プ 138		成城ホール
	シリーズ和・華・調	「清元～江戸の艶と、洒落と粋～」 浄瑠璃・清元美寿太夫、三味線・清元栄吉、小鼓・藤舎呂英を中心とした演奏に、舞踊・尾上紫を迎えた公演は、充実した内容となった。一般になじみが薄いテーマであったので、冒頭にトークの時間を設け、理解につなげた。	5月28日	4,500～ 4,000	217	420	成城ホール
	ミュージック・ラウンジ	肩の凝らない内容で、大人がリラックスして楽しめる内容の演奏会。 アコーディオン・桑山哲也とピアノ・大貫祐一郎に、ボーカル・藤田朋子をゲストに加えた「Chill Music Concert」と題したステージ。40～50代の新しい客層を呼び込みことができた。	6月17日	3,000～ 2,700	148	320	北沢タウンホール
		ギター・小倉博和のステージ。「Wood & Sound」と銘打ち、家具を装飾的に並べ、木と音楽のぬくもりが感じられる、心地よい空間となった。1ドリンク付きにしたことで、ロビーに入った時から和やかな雰囲気を演出できた。	12月2日	3,500～ 3,200	227		
活動をつなぐ演奏会	異分野とのコラボレーション	「お話と音楽でつづる 気象と音楽」 池辺晋一郎音楽監督の企画。気象予報士・佐々木恭子と一流の音楽家たちを招き、気象にまつわる、お話とクラシック音楽で綴った演奏会。	2023年3月18日	4,000～ 3,600	147	210	アリーナホール
	せたがや名曲コンサート	ブラームス「ドイツ・レクイエム」 世田谷フィルハーモニー管弦楽団と世田谷区民合唱団が共演する毎年恒例の演奏会を4年ぶりに開催。黒岩英臣の指揮で、両団の念願であったドイツ・レクイエムを演奏した。	2023年2月19日	2,500～ 1,000	922	1,320	昭和女子大学人見記念講堂

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
活動をつなぐ演奏会	連携コンサート	意義のある企画を選んで、他の団体と共同で開催するコンサート。 (1)「かわさきジャズ2022」 世田谷区と包括協定を締結している川崎市が実施するジャズ・フェスティバルに、潮田和夫トリオを派遣した。	10月8日	無料	250	—	新百合ヶ丘駅南口広場
		(2)「荒井良二のぶるっとーク&ライブ！」 世田谷美術館で開催されるミュージアムコレクションⅡ「荒井良二のアールぶるっと！」と連動したコンサート。絵本作家にとどまらず、音楽活動も行う荒井良二が、展覧会にまつわる楽しいトークと演奏を行った。	10月22日	2,000	63		世田谷美術館講堂
ワーク ショップ・ 講座	せたがや音楽研究所	宮川彬良スペシャル・プロデューサーが、音楽を紐解いていく、バラエティ形式のコンサートの14回目。「作曲家自らマツケンサンバを大分析！」と銘打ち、打楽器奏者の三沢まろうを迎え、客席にサンバの臨場感を伝えた。	10月1日	4,000～ 3,500	270	300	烏山区民会館
	音楽講座	公演に因んだもの、また音楽にいろいろな角度から焦点をあてたものなど、区民がいろいろな形で音楽の楽しさに触れられるような講座を実施した。 (1)「アコーディオン話会」 「ミュージックラウンジ」出演のアコーディオン奏者・桑山哲也によるトーク・ショー。演奏を交えながら、楽器の魅力を伝えた。	6月1日	無料	45	60	三茶しゃれなあどホール
		(2)ハラダ タカシ「オンド・マルトノ講座」(再掲) 公演直前に、出演者であり、この楽器の第一人者であるハラダ タカシ自身による、楽器についての「講座」を開催、理解を深めた。	7月2日	講座 3,000～ 2,800	48		北沢タウンホール
		(3)「こどものためのピアノとドラム 体験ワークショップ」(再掲) 室内楽シリーズに出演の三船優子と堀越彰による、小学生対象のワークショップ。低学年向けと高学年向けに分けて実施した。	7月28日	900	138		成城ホール
		(4)街角マチコの「まちかどテルミン」小学生向け講座 不思議な楽器テルミンをちょっと体験してみる講座。初めて体験する人ばかりだったが、各人短い曲を弾くことができた。(各日2回)	①8月4日 ②8月30日	500	①22 ②21		①三茶しゃれなあどホール ②鎌田区民センター
		(5)「マイ・プレイリスト」五木田智央×松村正人／しまおまほ×南部広美 クリエイターがプレイリストをもとに、音楽の楽しさを語るトークイベントを2回開催した他、その記録紙を発行し、音楽との新たな出会いを提案した。	①2023年1月31日 ②2023年2月28日	1,000	①50 ②61		生活工房セミナールーム
次の時代のための プログラム	せたがやジュニアオーケストラ運営	世田谷区在住・在学の小学3年生から大学2年生までのメンバーで構成。東京フィルハーモニー交響楽団と連携して、年間を通じて活動を行った。夏休みには、川場村で合宿練習を行った。	通年	月額5,000	94	90	区内各所、川場村
	せたがやジュニアオーケストラ定期演奏会	一年間取り組んだ活動の成果を問う演奏会。いま最も注目を集めている指揮者・角田鋼亮を迎え、都内屈指のコンサートホールで、持てる力を十分に発揮した演奏を披露した。	2023年3月28日	1,500～ 1,000	770	800	東京オペラシティ・コンサートホール

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
次の時代の ための プログラム	学校への訪問企画	学校に生の音楽を届けるため、授業の一環として、体育館でコンサートを開催。「まちなかコンサート」で好評を得た内容に、中学生に親しみやすいような工夫を加え、大喝采を得た。(2回)	①2023年3月8日 ②2023年3月22日	無料	①450 ②300	1,000	①世田谷中学校 ②三宿中学校
区民の表 現の場の 提供	世田谷アーティスト支援企画 Discovery Setagaya Sounds	「エリック・ミヤシロ オールスターバンド」 世田谷区民の一流アーティストによる、世田谷区民に向けた、世田谷ならではの公演。トランペット奏者エリック・ミヤシロが率いるオールスターズが、世界レベルの素晴らしい演奏を披露した。	2023年1月14日	4,500～ 4,000	280	290	玉川せせらぎホール
	区民チャレンジ・ライブ	「せたがやアカペラバトル」 アマチュアのアカペラ・グループを公募で募ったコンテスト。決勝大会は、予備審査を経て選ばれた8団体が競った他、ゲストによるパフォーマンスもあり、愛好家を楽しませた。	2023年2月5日	900～810	207	380	玉川せせらぎホール
	世田谷区民音楽団体の支援 [区受託]	世田谷フィルハーモニー管弦楽団、世田谷区民合唱団、世田谷区民吹奏楽団、アマチュア3団体の活性化、発展を側面から支援した。	通年	—	—	3団体	—
地域活性 のための 文化プロ ジェクト	せたがやまちかど・まちなかコ ンサート	区民が身近な地域で音楽を楽しめるよう、区内各所の比較的小規模の公共施設で、肩の凝らないコンサートを実施する。 (1)せたおんまちなかコンサート「気軽に身近にクラシック！」 どこかで一度は聞いたことのあるような、親しみあるクラシックの名曲の数々を楽しい演出を施しながら聴かせた。	5月21日	無料	150	2,000	中町ふれあいホール
		(2)せたおんまちなかコンサート「気軽にクールにクリスマスジャズ！」 東京都へブزنアーティストであるHIBI★Chazz-Kが、クリスマス定番の曲はじめ、おなじみの曲を集めたジャズで楽しませた。	12月17日	無料	220		北沢タウンホール
		(3)せたおんまちなかコンサート「コトコトさんの小さな音楽会」 打楽器、ピアノ、チェロを伴奏に、子ども向け公演「コトコトさんのドレミ図書館」で人気のコトコトさんが、大人も子どもも楽しめる歌を聴かせた。	2023年3月21日	無料	65		上北沢区民センター
		(4)街角マチコの「まちかどテルミン」夕暮れコンサート 楽器解説も含め、テルミンが醸した不思議な音の世界を楽しんでもらうコンサート。舞台のないフラットな空間で実施した。(2回)	①8月4日 ②8月30日	無料	①68 ②71		①三茶しゃれなあど ホール ②鎌田区民センター
	せたがやミュージック・フェス [区受託]	区内で活動するアマチュア音楽団体を対象に、身近な地域のホールで発表する機会を提供、同時に、プロの音楽家をゲストに招き、区民が広く楽しめるコンサートとした。(2回) ①「せたがやミュージック・フェス・イン砧」 ②「せたがやミュージック・フェス・イン玉川」	①9月18日 ②11月23日	無料	①137 ②166	400	①成城ホール ②玉川せせらぎ ホール
音楽事業 部広報	「情報ガイド」をはじめとする各 種広報活動	ホームページ、『せたおんイベント』や『情報ガイド』、さらにはマスコミ等への情報提供を通じ、事業予定・内容等を広く区民へ発信した。特に、SNSでの発信に力を入れた。	通年	—	—	—	—

(4) 世田谷文化的生活情報センター 国際事業部

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
市民活動 支援	せたがや国際交流センター の運営	区内在住外国人の生活相談等の問い合わせに対する窓口案内などを行った。また、行政情報、生活・文化情報の他、国際交流などの地域活動団体の紹介を行った。	通年	—	4,012	3,000	せたがや国際交 流センター
	区内活動団体の支援事業	区内で活動をしている団体に対して、事業のPRや事業連携等を行った。 【せたがや国際交流センター展示コーナー提供】 国連UNHCR協会、国連WFP協会、国連ウィメン日本協会、世田谷区、エチオピア文化協会、エチオピアアートクラブ、一般社団法人国歌の輪、タンザニア大使館、アフリカンアート支援機構、bioReプロジェクト、国際NGOプラン・インターナショナル、男女共同参画センターらぶらす、花の国日本協議会、テンブル大学、昭和女子大学、駒澤大学、昭和女子大学附属昭和高等学校など 【広報】 世田谷トラストまちづくり、SANCHA ³ 、世田谷ボランティア協会、世田谷区、生活工房、世田谷美術館、向井潤吉アトリエ館、清川泰次記念ギャラリー、宮本三郎記念美術館、世田谷文学館など	通年	—	26団体	20団体	せたがや国際交 流センター
国際交流・ 異文化理 解の推進	区民国際交流事業	【せたがや国際メッセ】 区民が多様な文化を知り・触れることができ、参加・出展する区民団体等の活動をPRする場を提供する「せたがや国際メッセ」を区と共催で実施した。	2023年2月11日	無料	2,000	—	日本大学文理学 部百周年記念館
		【国際交流inせたがや】 区民と海外の人々の交流を目的とする事業「国際交流inせたがや」を、海外・国際研修旅行の参加者で結成された世田谷海外研修者の会と共催で実施した。	2023年2月10日	無料	85	—	セミナールーム
	やさしい日本語でまち歩き	外国人と日本人がやさしい日本語で話しながら街歩きをする「やさしい日本語でまち歩き」を実施した。世田谷の地誌に詳しい奥沢在住の方に浄真寺について、世田谷美術館の担当学芸員に宮本三郎記念美術館について聞いた。	10月22日	1,000	30	40	九品仏浄真寺 宮本三郎記念美 術館
	子ども企画	夏休み子ども企画として、タンザニア大使館の近くにある用賀小学校の児童が用賀小学校国の子ども大使として、タンザニア大使館を訪問する事業を実施した。	8月15日	500	8	—	タンザニア大使 館
ワーク ショップ・ 講座	多文化理解講座	外国人との交流を希望する在住外国人を含む区民を対象に、様々な国や地域の文化などを学ぶことができる講座を実施した。					
	①お隣の国、韓国を知ろう	韓国のドラマで目にする日常生活を通して、韓国での生活や文化、韓国語のフレーズなどをやさしい日本語で紹介した。	4月16日	500	53	60	セミナールーム

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
ワーク ショップ・ 講座	②覚えてみよう、いろいろな国歌	歌詞がない国歌や、幾度も変更されている国歌など、世界の様々な国歌の紹介を行った。	5月21日	500	32	60	セミナールーム
	③エチオピアってどんな国？	アフリカの北東部に位置するアフリカ最古の独立国で、文明の遺跡が多く残されている国エチオピアの魅力を、日本の文化に興味津々な在日エチオピア人とエチオピアの文化を日本に発信し続けている日本人が語った。	6月18日	500	48	60	セミナールーム
	④UNHCRの難民支援と私たちにできること	ウクライナをはじめ、世界のあちこちで人道危機が広がる中で困難に立ち向かう人々の姿と、難民支援機関である国連UNHCRの活動を伝えた。当日、参加者には支援も呼びかけ、12,162円の寄付があった。	9月10日	500	28	60	セミナールーム
	⑤やさしい日本語で伝えてみよう	外国語を話すことができなくても「やさしい日本語」を通じたコミュニケーションがあることに気づき、実践することを学んだ。	10月8日	500	37	60	セミナールーム
	⑥講演「フランスの漫画事情」口演「落語パフォーマンス」	日本在住25年の翻訳家であり、落語パフォーマーであるフランス人を講師に迎え、前半はフランスにおける漫画事情、後半は落語によるパフォーマンスを披露した。(午前・午後の2回)	11月12日	500	88	60	セミナールーム
	⑦SDGsと国連WFPの食料支援	国連WFP協会から講師を招き、飢餓の問題とWFPの活動、身近な影響についての話を、さらには区の清掃・リサイクル部の課長からフードロスの話をした。参加者からは21,942円の寄付があった。	2023年1月14日	500	21	60	セミナールーム
	にほんご交流会	外国人と日本人がグループに分かれ、やさしい日本語を使った交流を行った。	9月24日	500	43	—	セミナールーム
	にほんご交流会inテンブル大学	テンブル大学ジャパンキャンパスにおいて、テンブル大学の学生がやさしい日本語を使った発表と参加者である日本人との交流を行った。	①7月16日 ②10月29日 ③11月19日 ④2023年3月25日	500	①40 ②39 ③38 ④62		テンブル大学 ジャパンキャンパス
	ウクライナ支援 映画「ひまわり」上映会	ウクライナ支援のため、区との共催、技術部の協力のもと、映画「ひまわり」の上映会を実施した。国連UNHCR協会が事業に合わせて募金を行った。	6月23日	1,000	366	—	北沢タウンホール
国際事業部広報	国際事業部広報	せたがや国際交流センターの施設案内、国際事業部の事業などを情報発信した。また国際交流活動や地域活動などを実施する団体の情報、外国人への生活に役立つ情報、区内の施設案内なども併せて発信した。 (情報ガイド、ウェブサイト、Facebook、Twitter、Instagram、メールマガジン、Newsletter)	通年	—	—	—	—

(5) 世田谷美術館

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
企画展事業	出版120周年 ピーターラビット™展	世界中で愛される最も有名なうさぎピーターラビット™は、イギリスの挿絵画家ビアトリクス・ポター™によって1902年に生まれた。本展はその生誕120年を記念して企画された。絵手紙、原画、スケッチなど日本初公開となる貴重な作品を英国及びアメリカより借用し、展示した。また、120年にわたって愛されてきた彼の関連資料、グッズなども紹介し、広い世代にわたって人気を誇るその魅力に迫った。当館開催後、全国2会場へ巡回予定。東映株式会社、朝日新聞社ほかとの共催。(70日間)	(3月26日)～ 6月19日	一般1,600他	67,321	36,000 (総計: 60,000)	世田谷美術館
	こぐまちゃんとしろくまちゃん 絵本作家・わかやまけんの世界	累計発行部数が1000万部を超える大ロングセラー、「こぐまちゃんえほん」シリーズで知られる絵本作家・わかやまけん(若山憲、1930-2015)。その創作の全貌を紹介する、初の回顧展である。少年時代より童画に魅せられた若山が、初めて手掛けた紙芝居から、繊細な表現力をいかした初期絵本作品、明快でグラフィカルな魅力にあふれる「こぐまちゃんえほん」を経て、視覚言語としての「絵」の力を最大限にいかした創作絵本や、民話や詩の世界への挑戦まで、その多彩な創作活動について探った。遺族と出版社の協力を得て、絵本原画や絵本制作の過程で刷られたリトグラフ、雑誌の表紙原画、そのほか関連資料など約230点にて構成し、JR名古屋タカシマヤ、北九州市立美術館分館、ひろしま美術館の3会場を巡回し、当館は最終会場となった。(56日間)	7月2日～ 9月4日	一般1,200他	44,395	15,000	世田谷美術館
	宮城壮太郎展 使えるもの、 美しいもの	2011年に60歳の若さで惜しまれつつ亡くなった宮城壮太郎(1951-2011)。宮城は千葉大学を卒業後、浜野商品研究所に就職し、プロダクト・デザイナー、インテリア・デザイナーとしてのキャリアをスタートさせる。東急ハンズ、From 1stなどの商業施設の開発に参加したほか、カメラのデザインなども手掛け、独立後は、一時期世田谷区梅丘に居を構え、デザイナー、デザイン・コンサルタントとして活躍。そのなかでも、もっとも著名な仕事はアスクルで、アスクルの会社設立から関与し、オリジナル商品のほぼすべてをデザインしている。本展覧会では、宮城壮太郎のデザインの仕事の数々を紹介した。(50日間)	9月17日～ 11月13日	一般1,200他	8,649	17,000	世田谷美術館
	祈り・藤原新也	1969年、大学を飛び出してアジア全域を放浪し始め、1972年に『印度放浪』で衝撃的なデビューを飾った写真家・藤原新也(1944-)。本展は、その出版から半世紀という節目に開催する、作家の大回顧展である。作家の出身地にある北九州市立美術館での開催を皮切りに当館に巡回する本展では、シリーズ〈印度放浪〉をはじめ、アジアへの旅にひと区切りをつけたのちに発表したシリーズ〈東京漂流〉、〈メメント・モリ〉などの代表作から、コロナ禍に揺れる東京・渋谷の光景を切り取った最新作まで約200点を紹介した。藤原の写真表現は社会的な問題意識の鋭さとともに、絵画的とすら形容し得る構成美を特徴としており、本展ではその魅力を十全に引き出した。(51日間)	11月26日～ 2023年1月29日	一般1,200他	24,866	15,000	世田谷美術館
		関連企画 「祈り・藤原新也」展特別講演会	12月10日	無料	90	—	

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
企画展事業	わたしたちは生きている！ セタビの森の動物たち	当館のコレクションから、古今東西、様々な手法で表現されたいろいろな動物の作品を一堂に展示する内容。作品に描かれた生命に触れながら、この時代にたくましく、のびのびと想像力豊かに生きることを考える子どもたちのための展覧会。Ⅰ《とりたちのうた》、Ⅱ《人とともに》、Ⅲ《思いをのせて》、Ⅳ《いのちの森》、Ⅴ《ねこの園》、の5つの構成で作品を展示し、併せて来場者が参加できる参加コーナーも設けた。また、区内の小学校と連携した展示や大人対象、子ども対象のワークショップ・イベントを開催した。(42日間)	2023年2月18日 ～(4月9日)	一般500他	7,657	9,000	世田谷美術館
		関連企画 展覧会見どころ案内《セタビの森の歩き方》	2023年3月18日 19日、21日、26日	—	173	—	
調査・研究	調査・研究						
	企画展	次年度以降の企画展の立案・具体化のため、国内外各所との交渉や基礎的な調査研究を行った。	通年	—	—	—	世田谷美術館
	収蔵品等 [指定管理]	収蔵品及び美術館活動に係る調査・研究を行った。学芸員による調査研究成果を『紀要』として編集発行し、美術研究に資した。	通年	—	350冊	350冊	世田谷美術館及び分館
	アーカイブ [指定管理]	本年度の事業のまとめとして『年報』を編集発行し、美術館活動を総括し、記録した。	通年	—	300冊	300冊	世田谷美術館
収蔵品展	美術館 ミュージアム コレクション [指定管理]	世田谷美術館の収蔵作品を、テーマを設定して公開した。					
		第Ⅲ期 ART/MUSIC わたしたちの創作は音楽とともにある	(2021年12月4日) ～4月10日		3,071		
		第Ⅰ期 美術家たちの沿線物語 大井町線・目黒線・東横線篇 小コーナー 黒船館をめぐる 一小川千甕・吉田正太郎・吉田小五郎(81日間)	4月23日～ 7月24日	一般200他	24,988		
		第Ⅱ期 荒井良二のアールぶるっと！ こんなに楽しい世田谷美術館の収蔵品(92日間)	8月6日～ 11月20日		17,866		
		関連企画 荒井良二のぶるっとトーク&ライブ(音楽事業部と共催)	10月22日		63		
		第Ⅲ期 それぞれのふたり 萩原朔美と榎本了彦(97日間)	12月3日～ (2023年4月9日)	一般200他	19,674		

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
収蔵品展	美術館 ミュージアム コレクション [指定管理]	関連共催イベント 世田美連続イベント もう、アートの祭りだ！ (アタマトテ・インターナショナルとの共催)					
		トーク第1回 日本グラフィック展からダンボールアート少年が躍り出た！ ゲスト：日比野克彦 ホスト：萩原朔美・榎本了壺	2023年2月4日	2,200	58	—	世田谷美術館
		トーク第2回 突然！ 笑いながら怒る男が来た！ ゲスト：竹中直人 ホスト：萩原朔美・榎本了壺	2023年2月11日	2,200	75		
		トーク第3回 ビックリハウスでムーンライダーズやヒカシューが遊んだ！ ゲスト：鈴木慶一、巻上公一、高橋章子 ホスト：萩原朔美・榎本了壺	2023年2月18日	2,200	77		
		トーク第4回 名物かいぶつ祭(句会かいぶつ達のおもて芸大会) ゲスト：金原亭世之介、蜷川有紀、阿部知代、サエキけんぞう、 高遠彩子、笹公人、新井高子 ホスト：榎本了壺	2023年2月25日	2,200	76		
	向井潤吉アトリエ館収蔵品展 [指定管理]	向井潤吉作品にかかわる作品展を年2回実施した。				8,100	向井潤吉アトリエ館
		第Ⅰ期 暮らしの気配——向井潤吉が描いた民家と生活 (141日間)	4月1日～ 9月11日	一般200他	2,051		
		第Ⅱ期 一期一会の風景——向井潤吉の民家紀行 (135日間)	10月1日～ 2023年3月12日		1,891		
	清川泰次記念ギャラリー収蔵品展 [指定管理]	清川泰次作品にかかわる作品展を年2回実施した。				2,420	清川泰次記念 ギャラリー
		第Ⅰ期 清川泰次 白と線の時代 (141日間)	4月1日～ 9月11日	一般200他	642		
		第Ⅱ期 清川泰次 色をめぐって (135日間)	10月1日～ 2023年3月12日		848		
	宮本三郎記念美術館収蔵品展 [指定管理]	宮本三郎作品にかかわる作品展を年2回実施した。				3,600	宮本三郎記念美 術館
		第Ⅰ期 宮本三郎 西洋の誘惑 (141日間)	4月1日～ 9月11日	一般200他	1,418		
		第Ⅱ期 宮本三郎と「日本」 (135日間)	10月1日～ 2023年3月12日		1,353		

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
資料収集・ 管理	資料収集 [指定管理]	貴重な美術作品及び美術に関する資料を、世田谷区民の文化的財産として蓄積していくため、区と共に収集委員会条例に基づき、美術品等を収集する。現在、作品の購入はないが、作家本人や区民から寄贈の申し出があり、収集する機会が生ずる。これらの機会を的確にとらえ調査を行い、収集委員会への提案に結び付けた。新規委託物品1032点(取得評価額205,623,630円)。	通年	—	—	—	世田谷美術館及 び分館
	作品保管整理 [指定管理]	収蔵品を保管・整理し、いつでも展示・公開できるように作品のコンディションを良い状態に保った。問題が生じた作品は修復や額装改善などの処置を施した。作品のデータについては収蔵品管理システムを活用し、一括管理した。また、収蔵品の公開の機会を増やすため、貸付要領に基づき作品の貸出を行った。修復、額装など168点。貸出については、貸出10件44点(内、資料0点)、返却8件36点(内、資料0点)。	通年	—	—	—	世田谷美術館及 び分館
アートライ ブラリーの 運営	アートライブラリーの運営 [指定管理]	世田谷美術館が所蔵している美術専門書の閲覧やビデオ視聴、またレファレンスサービス等による情報提供を行った。	通年	—	8,665	12,000	世田谷美術館
ワーク ショップ・ 講座	講座・ワークショップ	美術と創造の普及を目的とした各種講座、企画展に関連した講座、子どもから大人まで幅広い年齢層を対象とした単独開催形式の講座を開催した。どなたでも気軽に参加できる100円ワークショップ、実技の体験を目的とした講座や小中学生を対象に連続した実技と講義で美術を学ぶ講座を開催した。また、ギャラリートーク・講演会・ワークショップ・コンサート、ホームページからの動画配信など様々な普及活動を行った。					
		【100円ワークショップ】 おうちで100円ワークショップ(ピーターラビット TM 展) 「もふもふ in イングリッシュガーデン」	ピーターラビット展 会期中の土曜日	100	856	1,545 ↓	世田谷美術館及 び分館
		おうちで100円ワークショップ(こぐまちゃんとしろくまちゃん 絵本作家・ わかやまけんの世界展) 「こぐまちゃんカラーでうちわをつくろう」	わかやま展 会期中の土曜日	100	1,694		
		おうちで100円ワークショップ(宮城壮太郎展、藤原新也展) 「だれかをよろこばせるプロジェクト」	宮城展、藤原展 会期中の土曜日	100	472		
		100円ワークショップ(わたしたちは生きている！展) 「自分の絵でカンパッチを作ろう」	わたしたちは 生きている！展 会期中の土曜日	100	115		

※ ↓は後のページを含む人数を示す

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
ワーク ショップ・ 講座	講座・ワークショップ	【展覧会関連ワークショップ】 「世田谷美術館コレクション選 わたしたちは生きている！ セタビの森の動物たち」展プレワークショップ 「セタビの森の動物たちを作ろう」	12月5日、6日 12日、19日、20日 2023年2月10日	—	149	↑ 1,545	世田谷美術館及 び区内小学校
		「世田谷美術館コレクション選 わたしたちは生きている！ セタビの森の動物たち」展関連企画 ワークショップ「謎の生きもの!? セタビの森のヌシ」	2023年3月18日 19日、4月2日	200	18		世田谷美術館
		「世田谷美術館コレクション選 わたしたちは生きている！ セタビの森の動物たち」展関連企画 オイリュトミー特別講座「はこぶね」	2023年3月22日 24日、29日、31日	5,000	16		
		【ナイトツアー】 ナイトツアー2022「セタビ少年少女探偵団～怪盗イバテス・リターンズ」	7月20日～ 8月20日	—	42		
		宮本三郎記念美術館 サマー・ワークショップ2022 「つくってみよう じぶん色の油えのぐ」	8月12日～14日	100	132	—	宮本三郎記念美 術館
	美術大学	長期の本科または小人数を対象とした講義・実技を組み合わせた短期セミナーを開催。その他、ホームページからの動画配信などを通じての通信講座を引き続き開催した。また修了者を対象としたステップアップ講座も規模を縮小して開催した。	通年	70,000 ステップアップ 講座 10,000	30 ステップアップ 講座 307	120	世田谷美術館 オンライン
	パフォーマンス	美術館を音楽による交流の場とするとともに、若手音楽家の育成を図ることを目的に、実力ある若手を中心とする音楽家によるリサイタル形式のコンサートを回数及び観客数を制限して実施した。(2回)				80	世田谷美術館
	プロムナード・コンサート	松本華子・吉田裕佳子 デュオ・コンサート	10月9日	無料	50		
		梶田真未 ソプラノ・リサイタル 異国の女たちの歌～ドイツから東欧へ～	2023年3月4日	無料	50		
	パフォーマンス等イベント	「Performance Residence in Museum 2022-23」 当館の特徴を活かした、アーティストの創造支援を目的とするレジデンス・プログラムを実施した。新型コロナウイルスの感染対策に考慮した一般公開イベントや、鑑賞リーダー(当館ボランティア)などと交流しながらパフォーマンスの創作活動を行なった。	11月29日～ 2023年3月5日	無料	150	100	世田谷美術館

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
ワーク ショップ・ 講座	パフォーマンス等イベント	「中村恩恵カナリアプロジェクト 沈黙のまなざし Silent Eyes」 振付家・ダンサー中村恩恵のコンセプトによるワーク・イン・プロGRESS。約3か月にわたり、当館を見守るクヌギの木を見つめながら、息苦しい社会におけるアーティストの役割などについて画家の泉イネ、写真家のトヨダヒトシとともに語らい、ソロで踊るというルーティンを継続。今井智己の記録写真による映像インスタレーションとして、美術館の廊下で発表した。	映像インスタレーション公開 2023年3月14日～21日 関連トーク 18日	映像インスタレーション 無料 関連トーク 500	映像インスタレーション 300 関連トーク 10	映像インスタレーション 400 関連トーク 15	世田谷美術館
		「蛙犬プロジェクト Frog Dog Project 蛙犬inセタビの森」 「わたしたちは生きている！ セタビの森の動物たち」展に関連し、吉田萌（アーティスト）が創作した棒操り人形（蛙犬）を動かすパフォーマンスプロジェクト。鑑賞リーダー（当館ボランティア）・当館美術大学OBの有志と練習会を行い、当館館内（3月30日）やさくら祭（4月1日、2日）会場にて披露した。	2023年3月30日 （4月1日、2日）	無料	54	100	世田谷美術館
子どもと学 校プログラ ム	美術鑑賞教室	世田谷区教育委員会との連携により、世田谷区立の小学校4年生の児童、中学校の生徒を対象に、展覧会及び美術館内の施設見学を実施した。また特別プログラムでは、当館インターンによる区立小学校への出張授業を行った。（美術鑑賞教室は小中学校全90校）					
		【小学生】年間61校（63日）	5月～2023年3月	—	6,232	17,300	区内小・中学校 など 世田谷美術館
		【中学校】	5月～2023年3月	—	646		
人材育成 プログラム	学校との連携	学芸員後継者育成と美術館諸活動の普及のために、博物館学実習生や学芸大学インターン生などを育成した。					
		(1)博物館実習 学芸員後継者育成と美術館諸活動の普及のために、博物館学実習の講義及び普及事業を中心とする実技を行った。（9日間）※講義についてはライブ配信も併用した。	8月25日～ 12月17日	10,000	26	40	世田谷美術館 オンライン
		(2)インターンシップ 長年の実績がある学芸大学インターン生を育成し、美術鑑賞教室で来館する区内小学校4年生への事前（事後）出張授業を行う特別プログラムを実施した。（区内小学校21校）	通年	—	7		世田谷美術館他
		(3)区内大学との連携 昭和女子大学とテンブル大学の合同授業「コミュニティアート」において、当館普及事業と地域との関わりをテーマとしたレクチャー協力を行った。	通年	—	29		世田谷美術館 区内大学オンラ イン

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
アクセシビリティ向上事業	アクセシビリティ向上事業	展覧会に関連した講演会において、より良い理解を目的として、手話通訳を手配し、配置した。	通年	—	10	10	世田谷美術館
	ミュージアム・セッション	〈開催中止〉 視覚障害者と晴眼者がともに美術を鑑賞し、豊かなコミュニケーションを育むという新しい実践及び研究に関するトークを開催予定であったが実施困難となり見送った。	—	—	—	100	世田谷美術館
区民の表現の場の提供	区民展	世田谷区もしくは川場村在住・在勤・在学者を対象に、作品の募集を行い、区民ギャラリーにて展示した。	10月～ 2023年3月	無料	234	250	世田谷美術館
	区民ギャラリー等の貸出 [指定管理]	世田谷美術館及び清川泰次記念ギャラリーにおいて、創作活動発表の場として区民ギャラリー及び講堂の貸出を行った。					
	美術館(本館)区民ギャラリー	創作活動発表の場として、世田谷美術館の区民ギャラリーA・B貸出を行った。(利用団体数98)	通年	1日あたり1室 13,820他 (利用は6日単位)	48,623	75,000	世田谷美術館
	清川泰次記念ギャラリー区民ギャラリー	創作活動発表の場として、清川泰次記念ギャラリーの区民ギャラリー貸出を行った。(利用団体数34)	通年	1日あたり2,880 他(利用は6日単位)	3,569	4,000	清川泰次記念 ギャラリー
	美術館(本館)講堂	文化・芸術に関する活動・発表の場として、美術館活動に支障のない範囲で世田谷美術館の講堂貸出を行った。(利用団体数42)	通年	1日10,800他	2,245	1,300	世田谷美術館
地域活性的のための文化芸術事業	ボランティア活動	世田谷区立小学校鑑賞教室及び出張授業、中学校鑑賞教室、川場村小学校出張授業、ミュージアム・ツアー、ワークショップ、イベント等の支援を行った。また、中止が続いているさくら祭の代替イベントとして11月6日にエントランス広場にてセタビ・フリマをおこなった。	通年	無料	275	250	世田谷美術館他
美術館広報	美術館広報	当館ウェブサイトやSNS、印刷物のほか、マスコミ等の媒体への情報提供を通じて、館の活動や事業予定・内容等について広く区民等へ発信した。	通年	—	—	—	—
	ニュースレター(美術館だより、友の会だより)等の発行	①「ニュースレター 美術館だより、友の会だより」年3回、6月・10月・2023年2月発行、各1,500部)の発行 ※友の会分をあわせると各3,000部 ②年間予定表(2023年3月発行、50,000部)の発行	①6月、10月 2023年2月 ②2023年3月	—	54,500部	54,500部	—

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
企画展事業	ヨシタケシンスケ展かもしれない	2013年のデビュー作『りんごかもしれない』が大ヒットし、一躍絵本界の寵児となったヨシタケシンスケ氏(1973～)。日常の些細なできごとをユーモアあふれるタッチで描きながらも、素朴な疑問から想像力を膨らませ、哲学的な思考にまで発展していく手法が、子どものみならず大人の心も捉えている。 本展はヨシタケ氏の初の大規模展覧会で、当館は全国巡回の立ち上げ館となった。本展のためにヨシタケ氏本人が考案したアトラクションの数々により、いわゆる従来の「絵本原画展」とは一線を画すかたちで、子どもも体を使って存分に楽しめる展示会場とすることができた。また、発想の源である小さなスケッチを壁一面に貼り巡らせたり、アイデアメモを大きく拡大して見せるなどの工夫により、作家の「頭のなか」に迫る展示が人気を博した。 コロナ禍のため人数制限をするべくオンラインでの事前チケット制としたが、会期後半にはチケットがすべて売り切れ、計60,000人弱の来場となった。当館企画展においては歴代2番目の入場者数となり、入場料収入も想定を大きく上回った。	4月9日～ 7月3日	1,000～300	59,843	24,400	世田谷文学館
	シーズン展示 漫画家・山下和美展 ライフ・イズ・ビューティフル	大学教授だった父親をモデルにした『天才柳沢教授の生活』、マーク・トウエインの同名小説に着想を得た『不思議な少年』、そして民俗学とSFの要素を織り交ぜた『ランド』(2021年度手塚治虫文化賞受賞)などの作品で知られる漫画家・山下和美氏。画業40年を超え、『世田谷イチャイチャ洋館の家主になる』『ツイステッド・シスターズ』など自宅のある世田谷を舞台にした漫画も人気連載中。ますます注目を集める区内在住漫画家の仕事を、直筆原稿をはじめ各作品の設定資料、代表作のモデルとなった父や、先に漫画家デビューをしていた姉たちの資料など150点以上で紹介した。 また、文学サロンを会場に実施する新たな枠組み「シーズン展示」として、広報では環境印刷・カーボンオフセット、造作物ではリユース・リサイクル可能な素材で構築するなど、可能な限りの環境配慮型展示とすることができた。	7月30日～ 9月4日	無料	3,408	5,000	世田谷文学館
	月に吠えよ、萩原朔太郎展	人間の孤独や倦怠を鮮やかなイメージと口語のリズムにのせた『月に吠える』『青猫』などの詩集で、口語自由詩を確立した詩人・萩原朔太郎(1886～1942)。没後80年を記念し、全国50館強の施設・団体で横断的に開催された「萩原朔太郎大全2022」の一環として、朔太郎が晩年を過ごした世田谷に位置する当館でも新たな視点でこの不世出の詩人を採り上げた。 会場は一冊の「本」を読むように朔太郎の生涯と作品を迎えるデザインとし、原稿・ノート・書簡などの資料のほか、朔太郎作品をモチーフにした現代の作家たちによる絵画・漫画作品や体験型インスタレーションなどを展示した。来場者層は若年層が比較的多く、高齢者を含め多世代の来場が特徴的な結果となった。 なお本展に関連して、池之上青少年交流センターと共催で事前にワークショップを実施し、そこで描かれた絵をフラッグにして会期中に下北沢駅周辺の各商店街で掲出。また、館内のこども向け無料企画として朔太郎作品をモチーフとしたダンボール迷路を設置。さらに朔太郎を主題にした移動文学館の新規キットを制作・館内展示するなど、本展を軸として多角的な普及事業の展開をも行うことができた。	10月1日～ 2023年2月5日	900～無料	8,789	10,000	世田谷文学館

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
調査・研究	調査・研究 [指定管理]	文学館活動の基盤となる収蔵コレクション及び世田谷ゆかりの作家・ゆかりの作品の調査・研究を行った。コレクション展にもその内容を活用することができた。	通年	—	—	—	世田谷文学館
収蔵品展	コレクション展 [指定管理]	文学館が収蔵する貴重な文学資料を核に、世田谷を舞台にした文学作品の関連資料とゆかりの文学者の資料を展示し、区民に広く親しむ機会を提供した。	4月9日～9月11日	200～100	9,163	15,000	世田谷文学館
		前期「セタブン大コレクション展PARTⅡ 山ありてわが人生は楽し」 昨年度に引き続いて開館25周年記念事業として開催し、収蔵品の中から特色あるコレクションを紹介した。	10月1日～ 2023年3月31日	200～100	7,375		
資料収集・管理	資料収集・管理 [指定管理]	世田谷ゆかりの作家や区民等からの寄贈・寄託により、文学資料等の収集、および世田谷区が所有している作品を系統的に整理するとともに、良好な状態で保存・展示するため保管管理し、計画的に調査を進めた。保管環境の維持・向上のため、展示室・収蔵庫および周辺部の環境確認のための環境調査のモニタリングを年間を通じて実施し、本年度は隔年実施の収蔵庫燻蒸も行った。逼迫した課題である収蔵庫狭小化対応のため、収蔵資料の保管場所の見直しと保管場所確保のための2階3階両収蔵庫の整理作業を進めた。 また、貸付要領に基づき、コレクションの貸付を他館展覧会等へ行った。 2023年3月31日現在101,779点の収蔵品を保管・登録(2022年度新規収蔵品:694点) 資料貸付:9件114点 特別観覧:8件10点 特別閲覧:10件267点	通年	—	—	—	世田谷文学館
OAシステム	OAシステムの運用 [指定管理]	世田谷文学館の収蔵資料を適切に管理し、活用・公開を促進するため、収蔵品管理システムの管理運営を行った。また、一昨年度開始したホームページ上での主要収蔵資料の検索サービスの追加公開を行った(10月ー映画監督・成瀬巳喜男旧蔵資料公開)。次年度以降のインターネット公開に向け、椎名麟三資料および柳生悦子衣装デザイン画資料のデジタルデータを作成した。	通年	—	—	—	世田谷文学館

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
地域連携 事業	どこでも文学館	「いつでも、どこでも、だれでも参加できる博物館」というコンセプトのもと、館内外でのリアルイベントとともに、オンライン活用による配信イベント、ワークショップのプログラムの開発を進めた。新型コロナウイルス感染拡大防止対応で実施方法を変更したワークショップの対面開催も再開した。学校や地域と連携しての写真展や文学作品のパネルなどの出張展示・出張ワークショップも引き続き実施し、出張展示キットの区外への貸し出しも行った。	ワークショップ開催 8月7日、21日 フラッグ掲出 11月～12月	無料	ワークショップ 参加者 40	60,000 ↓	世田谷区立池之上青少年交流センター、下北沢商店連合会
		ワークショップ「探検をはじめよう！ー探検家の想像力ー」 探検家の高橋大輔氏を講師にオンラインで開催。実践的なサバイバルテクニックの紹介、常識に捉われない探検のプロセスを学び、アンケートやクイズ、質問コーナーも交えて双方向、多世代参加型のイベントになった。	8月28日	無料	21		オンライン
		日経「星新一賞」出張授業 例年開催のショートショート創作ワークショップに代り、ショートショート文学賞の日経「星新一賞」受賞者による出張授業を共催で開催した。	9月11日	無料	15		世田谷文学館
		講座「生業さがし 児童文学をささえる仕事」 将来の仕事を具体的に考え始める高校生を対象に本にまつわる職業を知ってもらイベント。第2弾の今年は現役の児童書編集者を招いて、業務や遣り甲斐、どのように今の仕事に就いたかなど話を聞いた。参加者からの質問時間を長く設け、講師と本好きの参加者が熱く語り合った。	11月6日	無料	7		世田谷文学館
		コンサート「0才からのジャズコンサート」 0才から大人まで楽しめる本格ジャズコンサート。コロナ禍で数年休止していたイベントを再開。乳幼児もリズムを感じて体を動かし、二世帯、三世帯の子ども連れ家族で賑わった。	11月17日	1800～300	219		世田谷文学館
		学校連携ワークショップ「もっと朗読をたのしもう～プロの読み方を聞いてやってみよう～」 区立芦花小学校4年生が、第一線で活躍するプロの指導で国語の授業で学んだ「白いぼうし」の朗読に挑戦。さらに俳優、声優という職業についての質疑応答の時間も設けてキャリア教育にもつながった。	12月10日	無料	186		芦花小学校

※ ↓は後のページを含む人数を示す

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
地域連携 事業	どこでも文学館	ワークショップ「ことばとからだ フェルトバッジでウィンターダンス!!」 コロナ禍でオンライン開催だった創作ダンスワークショップを3年ぶりに対面開催。感染防止の観点を加えた新たなプログラムで元気いっぱいのダンスを完成させた。	12月11日	無料	6	↑ 60,000 ↓	世田谷文学館
		出張展示「OSAMU'S MOTHER GOOSE」〈前年度からの継続〉	4月1日～7月13日	無料	—		梅丘図書館
		出張展示「台湾・世田谷交流バナー 台湾はどんな国？スポーツ編」 〈前年度からの継続〉	4月1日～6月20日	無料	—		川場村 ふじやま ビレッジせせらぎの湯
		出張展示「北杜夫 どくとるマンボウ昆虫展」〈前年度からの継続〉	4月1日～6月20日	無料	—		川場村 なかの ビレッジB棟
		出張展示「大竹英洋写真展 ノースウッズ 生命を与える大地」 〈生活工房との共催〉	6月4日～7月10日	無料	—		生活工房
		出張展示「若草物語 -Little Women-」	6月21日～ 10月18日	無料	6,803		川場村 ふじやま ビレッジせせらぎの湯
		出張展示「水丸さんのがたんごとん」	6月21日～ 10月18日	無料	3,894		川場村 なかの ビレッジB棟
		出張展示「井上ひさし ふかいことをゆかいに」	6月24日～ 7月29日	無料	360		玉川中学校
		出張展示「シートン動物記」	6月24日～7月8日	無料	1,949		奥沢区民セン ター
		出張展示「シートン動物記」	7月14日～9月7日	無料	25,500		梅丘図書館
		出張展示「大竹英洋 ノースウッズ 生命を与える大地」	7月22日～ 8月24日	無料	1,109		コミュニティカ フェななつのこ
		出張展示「水丸さんのがたんごとん」	7月28日～ 8月24日	無料	37,023		中央図書館
		出張展示「大竹英洋 北の森 ノースウッズの世界」	8月12日～9月8日	無料	2,467		奥沢区民セン ター
		出張展示「宮西達也と子どもたち」	9月1日～9月27日	無料	1,084		芦花小学校
		出張展示「宮沢賢治 幻想紀行」	9月1日～9月27日	無料	799		弦巻小学校

※ ↑ ↓ は前後のページを含む人数を示す

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
地域連携 事業	どこでも文学館	出張展示「大竹英洋 ノースウッズ 生命を与える大地」	9月1日～9月27日	無料	347	↑ 60,000 ↓	船橋希望中学校
		出張展示「山へ！ to the mountains」	9月8日～3月1日	無料	83,400		梅丘図書館
		出張展示「水上勉のハローワーク」	9月9日～10月11日	無料	671		桜丘中学校
		出張展示「宮西達也と子どもたち」	9月28日～ 10月21日	無料	1,141		山野小学校
		出張展示「宮沢賢治 幻想紀行」	9月28日～ 10月21日	無料	347		八幡小学校
		出張展示「水丸さんのがたんごとん」	9月30日	無料	336		府中市立図書館
		出張展示「大竹英洋 ノースウッズ 生命を与える大地」	10月1日～ 10月26日	無料	9,073		千葉市みずほハ スの花図書館
		出張展示「北杜夫 どくとるマンボウ昆虫展」	10月11日～ 10月21日	無料	662		祖師谷小学校
		出張展示「SF入門 星新一」	10月11日～ 11月15日	無料	232		中里小学校
		出張展示「シートン動物記」	10月18日～ 2023年3月31日	無料	6,984		川場村 ふじやま ビレッジせせらぎの 湯
		出張展示「井上ひさし ふかいことをゆかいに」	10月18日～ 2023年3月31日	無料	2,384		川場村 なかの ビレッジB棟
		出張展示「水丸さんのがたんごとん」	10月21日～ 11月15日	無料	363		山崎小学校
		出張展示「大竹英洋 北の森 ノースウッズの世界」	10月27日～ 11月19日	無料	11,012		千葉市みずほハ スの花図書館
		出張展示「宮西達也と子どもたち」	11月1日～ 11月25日	無料	314		池之上小学校
		出張展示「SF入門 星新一」	11月15日～ 11月25日	無料	588		太子堂小学校
		出張展示「大竹英洋 ノースウッズ 生命を与える大地」	11月19日～ 12月18日	無料	200		塩尻市立図書館
		出張展示「詩人 萩原朔太郎」	11月20日～ 2023年3月31日	無料	2,111		世田谷文学館

※ ↑ ↓ は前後のページを含む人数を示す

※ ↑は前のページを含む人数を示す

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
地域連携 事業	どこでも文学館	出張展示「台湾・世田谷交流バナー 台湾はどんな国？スポーツ編」	12月2日～ 12月23日	無料	2,179	↑ 60,000	奥沢区民セン ター
		出張展示「大竹英洋 北の森 ノースウッズの世界」	12月3日～ 12月25日	無料	120		books&galler y羅秀夢
		出張展示「セタブン人生相談 ―あなたのための人生処方箋」	12月16日～ 2023年2月15日	無料	320		大田区立馬込図 書館
		出張展示「宮西達也と子どもたち」	2023年1月22日～ 2月5日	無料	524		稲城市立iプラザ 図書館
		出張展示「若草物語 -Little Women-」	2023年2月16日～ 3月30日	無料	46,883		中央図書館
	幼保連携 [区受託]	〈教育委員会からの依頼1～2月に実施〉 世田谷区教育委員会の「世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン」の基本方針 の一つである「文化・芸術とふれあうための各園等における環境づくり支援」の 一環として、乳幼児を対象とした文化・芸術体験のアウトリーチ事業と連携する ため、世田谷文学館が制作した出張展示用バナーセットの展示を、当委員会か ら委託を受け、本年度は2園で実施した。					
		出張展示「水丸さんのがたんごとん」	2023年1月6日～ 26日	無料	103	200	上用賀保育園 (人数は定員数)
		出張展示「水丸さんのがたんごとん」	2023年2月1日～ 17日	無料	43	200	八幡山幼稚園
講演会等 事業	企画展・コレクション展・ライ ブラリー関連公演会、上映 会、コンサート等事業	今年度は感染症対策のため、状況を鑑みながらオンラインとリアルでイベント を実施。人形劇「りんごかもしれない」(6月1日、出演：人形劇団プーク)、ポッド キャストによるオンライン配信の作家トークイベント「ヨシタケシンスケ展 やっぱ りこっちだったかもしれない」(6月17日配信開始、出演：ヨシタケシンスケ)、企 画展プレイイベント「あなたの言葉が詩になる 朗読と語りのワークショップ」(7月 30日、8月5日、出演：TOLTA)、子ども向けの段ボール迷路「猫町ラビリンス」 (2023年1月～2月)を実施した。	通年	—	1,134 〈オンライン 配信は除く〉	2,000	世田谷文学館 オンライン
	オンライン講演会・講座	萩原朔太郎展開催にあたりオンライン講演会「喪失と郷愁 ― 萩原朔太郎と 世界の旅人」(講師：エリス俊子)を実施。Zoomウェビナーを活用し、少人数を 対象とした公開収録を行いオンライン参加者に同時配信、オンラインによる質疑 応答も実施した。	10月30日	無料	58	—	世田谷文学館 オンライン
	セタブンマーケット2022・地 域連携催事	〈新型コロナウイルスの影響により中止〉 書物との新たな出会いと多様な楽しみ方を発信する、本と雑貨の蚤の市。作 家・デザイナー・編集者からの特別出品や、子どもも楽しめるミニワークショップ など、世田谷文学館独自の内容で実施。また「萩原朔太郎展」に関連して、作家 ゆかりの地域・下北沢商店街との連携催事も開催。(予定会期6・10月)	—	—	—	2,000	世田谷文学館

45

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
活動支援・共催事業	市民活動・友の会の支援など	友の会をはじめ、文学活動を中心とする区内外の団体の講座や活動を支援し、市民の生涯学習の要望に応えた館外講座、館内レクチャーを実施した。(全9回)	通年	—	503	500	世田谷文学館他
人材育成プログラム	学芸員実習	学芸員後継者育成のために、博物館学実習の講義・実習を行った。(6日間)	7月27～29日 8月2～4日	無料	4	—	世田谷文学館
	職場体験などの受入	博物館の仕事全般を学び、事業の企画や実施にも直接携わることができるプログラム。今年度は感染症対策を講じるため少人数での職場体験を対面で実施。協栄、サービス公社のスタッフに協力を仰ぎ、接客や施設管理面の内容を充実させ、収蔵資料や作品紹介にかかる説明や実習を行った。また高校生にはイベント運営委補助を体験してもらった。 受入れ校：船橋希望中学校、梅丘中学校、芦花中学校、芦花中学校特別支援学級、緑丘中学校、田園調布学園中等部、都立西高等学校	通年	無料	32	30	世田谷文学館
ライブラリーの運営	ライブラリー「ほんとわ」の運営 [指定管理]	幼児向けのプレイマットや授乳室などのベビーケア設備を備えた子どものための本のエリアや、各分野で活躍するプロフェッショナル、作家が薦める選書コーナーの充実など、書物との新たな出会いと多様な楽しみ方を提案し、地域のための図書空間を企画・運営した。さらに本年度は新たに朗読企画としてYouTube動画を制作し、新たな文学への親しみ方の提案を試みた。3階閲覧室においては、収蔵している閉架資料の閲覧サービスを行った。	通年	—	22,559	15,000	世田谷文学館
文学館広報	文学館広報	ホームページ、SNS、動画配信等による情報発信を継続するとともに、広報印刷物制作や、マスコミ媒体への情報提供を通じて、館の活動や事業予定・内容等について広く区民等へ発信した。また、新規に京王電鉄との広報事業協力やイベントのサブスクリプション(sonoligo)のHP画面での広報・チケット販売を開始するなど事業展開を拡大した。	通年	—	—	—	—
	ホームページコンテンツ制作 「ほんとわラジオ」放送 文学館ニュースの発行	文学館の事業活動を広く周知するため、ホームページコンテンツの制作、文学館ゆかりのゲストを招いたトーク番組「ほんとわラジオ」の放送、文学館ニュースを年2回発行した。 ◇「ほんとわラジオ」 (エフエム世田谷83.4MHz 毎週木曜日11:00～11:30 パーソナリティ・河西美紀) ゲスト：(4月)池澤春菜、(5月)ムットーニ、(6月)角田光代、(7月)緒方賢一、(8月)山下和美、(9月)高橋大輔、(10月)内沼晋太郎、(11月)豊田有恒、(12月)藤谷治、(2023年1月)亀山郁夫、(2023年2月)岡崎哲也、(2023年3月)乙部順子 特別番組：(12月)ムットーニ	通年	—	—	「ほんとわラジオ」放送 26回 「文学館ニュース」各 10,000部	—

(7) 財団共通

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
来館者サ ポート	来館者サポート	様々な状況にあるお客様の参加機会を増やすため、公演、イベント、施設利用などにおいて来館者サポートを行った。					
		【生活工房】					
		①車椅子の貸出	通年	—	—	—	ワークショップ ルーム等
		②手話通訳の配置	随時	—	—	—	
		③目が見える人と見えない人がともに参加するワークショップの開催	通年	—	—	—	オンライン
		④授乳室の利用など	通年	—	—	—	授乳室等
		【世田谷パブリックシアター】					
		①託児サービス 託児付き公演(388公演)	通年	2,200	115	—	パブリックシア ター/シアタート ラム
		②車椅子サービス(貸出、スペースの確保、車椅子昇降機など)	通年	定価の10%引、 付添1名無料	74 (付添49)	—	
		③視覚障害者のための音声案内システム付き化粧室の設置	通年	—	—	—	
		④視覚障害者のための舞台説明会(特定の主催公演のみ)	通年	—	—	—	シアタートラム
		⑤補助犬を伴っての観劇(スペースの確保など)	通年	—	—	—	パブリックシア ター
		⑥聞こえにくい方向けのヒアリングサポートシステム(特定の公演のみ)	通年	—	41	—	パブリックシア ター/シアタート ラム
		⑦聴覚障害者のための上演台本貸出	通年	—	3	—	
		⑧聴覚障害者のための手話動画(劇場HP)によるアクセス案内 及びチケット購入方法等の案内	通年	—	—	—	
		⑨聴覚障害者のための筆談具設置	通年	—	—	—	
		⑩多言語字幕付き上演(特定の主催公演のみ)	通年	—	—	—	
		⑪多言語情報発信	通年	—	—	—	劇場ホームペー ジ
		⑫非常時の避難方法及び広域避難場所への地図の配布など	通年	—	—	—	パブリックシア ター/シアタート ラム

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
来館者サ ポート	来館者サポート	【世田谷美術館】 ①講演会での手話通訳	通年	—	—	—	世田谷美術館
		②車椅子の貸出	通年	—	—	—	
		③ベビーカーの貸出	通年	—	—	—	
		④授乳室の利用など	通年	—	—	—	
	来館者サ ポート	【世田谷文学館】 ①車椅子の貸出	通年	—	—	—	世田谷文学館
		②ベビーカーの貸出	通年	—	—	—	
		③授乳室の利用	通年	—	—	—	
		④託児サービスの実施など	実施せず	—	—	—	
	せたがやアーツカード	世田谷区在住の15歳以上を会員資格とする無料の会員制度。財団主催の公演チケットの割引・先行発売や展覧会観覧料割引などの特典により、事業参加者や施設利用者の拡大を図った。メールマガジン配信を希望する会員には、各事業部の最新情報の提供を行った。 6月に会員資格の確認のため一斉更新を行い、区外転居者約1,700名が退会となった。世田谷パブリックシアター開場25周年を記念し、会員特典として、主催8公演にアーツカード会員430名を抽選で招待した。	通年	無料	会員数 17,741 メルマガ 配信者数 11,086 割引利用者 5,567	18,000	—
財団広報	財団広報	財団ホームページの運用 財団運営に関する情報及び各事業部の事業内容等を掲載した。	通年	—	—	—	—
		第43回せたがやふるさと区民まつりでのPR活動	8月6日、7日	—	—	—	若林公園他
		財団概要誌(財団パンフレット)2022年4月改訂版の配付	通年	—	—	—	—
	せたがや文化・スポーツ情報 ガイドの発行	財団各部の事業を広く区民等に周知するため、タブロイド判の情報紙を発行した。区報25日号と合冊し、新聞(主要6紙)に折込んでの戸別配布、図書館等の区施設、区内鉄道駅広報スタンド等に配架した。(12回)	毎月25日発行	無料	毎月 202,600 部	毎月 202,600 部	—
文化芸術の 拠点施設の 管理運営	世田谷文化生活情報セン ターの施設維持管理 [指定管理]	世田谷文化生活情報センターの施設維持管理を行った。	通年	—	—	—	世田谷文化生活 情報センター
		生活工房セミナールーム、ワークショップルームの貸出を行った。 ※ワークショップルームはワクチン接種会場として使用	通年	9,790～ 3,160	15,862	—	世田谷文化生活 情報センター

事業名	個別事業名	実施内容	実施月日	利用料金 (円)	実績人数 (人)	当初計画数 (人)	実施場所
文化芸術の拠点施設の管理運営	世田谷文化生活情報センターの施設維持管理 [指定管理]	世田谷区内の劇団等による演劇・舞踊公演など、様々な催し物を実施した。 4団体(公演回数31回)	通年	8,000～無料	7,380	—	世田谷文化生活情報センター
	世田谷美術館及び分館の施設維持管理 [指定管理]	世田谷美術館及び3分館(向井潤吉アトリエ館、清川泰次記念ギャラリー、宮本三郎記念美術館)の施設維持管理、区民ギャラリー及び講堂の貸出を行った。	通年				
		世田谷美術館区民ギャラリー 98団体	通年	1日あたり1室 13,820他 (利用は6日単位)	48,623	—	世田谷美術館
		清川泰次記念ギャラリー区民ギャラリー 34団体	通年	1日あたり2,880他(利用は6日単位)	3,569	—	清川泰次記念ギャラリー
		世田谷美術館講堂 42団体	通年	1日10,800他	2,245	—	世田谷美術館
	世田谷文学館の施設維持管理 [指定管理]	世田谷文学館の施設維持管理を行った。	通年	—	—	—	世田谷文学館
		講義室の貸出を行った。	通年	無料	149件	—	
物品販売事業	生活工房事業関連商品の販売	事業に関連するグッズ、制作物等の販売を行った。	適宜	—	—	—	世田谷文化生活情報センター
	パブリックシアター関連商品の販売	世田谷パブリックシアターとシアタートラムで上演された公演のパンフレットや映像化したDVD等の関連商品の販売を行った。	通年	1,500～500	11,984件	—	世田谷文化生活情報センター
	美術館ミュージアムショップの運営	美術館・分館のミュージアムショップを運営し、収蔵作品をモチーフとしたオリジナルグッズ・絵葉書等の開発・制作及び販売、また企画展開催時における関連グッズ・絵葉書・書籍等の販売を行った。	通年	—	—	—	世田谷美術館及び3分館
	文学館ミュージアムショップの運営	ミュージアムショップを運営し、オリジナルグッズの開発・制作及び販売、展覧会に関連した書籍や絵葉書等のグッズの販売を行った。	通年	—	—	—	世田谷文学館
飲食物提供事業	ロビーカフェの運営	〈新型コロナウイルスによりカフェの営業を中止〉	—	—	—	10,000	世田谷文化生活情報センター
	レストランの運営	世田谷美術館内のレストラン「ル・ジャルダン」は、利用者等への飲食提供サービスおよび結婚式等パーティー(65組)を実施した。	通年	—	15,284	20,000	世田谷美術館
	カフェの運営	世田谷美術館内の地下喫茶「セタビカフェ」にて、来館者への飲食提供サービスを行った。	通年	—	41,822	30,000	世田谷美術館

3. 事業評価

(1)生活工房

令和2年度以降、新型コロナウイルスの影響により区民の拠点施設としての強みを活かした参加型、体験型の事業への制約が続いている。令和3年度からは、展示、ワークショップ、大型イベント等の会場となる4階ワークショップルーム、コミュニティキッチンが世田谷区のワクチン集団接種会場として使用されていたが、令和5年1月をもって原状復帰され、2月より主催事業と貸館の利用を再開した。

会場の制約を受ける中でも3階、5階の施設を活かし、展示やワークショップ、セミナー等事業を継続するとともに、昨年度から設置した常設コーナーでは、8ミリフィルム映像のアーカイブを活用した展示を通年行った。ほとんどの事業で実績人数が当初計画数を上回り(19事業中15事業)、場の賑わいを取り戻している。

展覧会は、すべて生活工房ギャラリーでの開催となったが、展示に関連していろいろな仕掛けを工夫した。夏休みにかけて開催した「シュー・ウィンドウ 靴を紐とく展覧会」では、展示会場内にコーナーを設け、ガムテープの靴づくりワークショップを不定期に開催した。会期中に参加者が作った靴は153足にのぼり、気軽に立ち寄れる創作の場を半常設的に開く試みとして効果があった。毎週来場して9足を作り上げた小学生、ワークショップをきっかけに美術系の高校に進路を決めた中学生など、創作体験の場の良さを物語るエピソードがあった。

「岡本仁の編集とそれにまつわる何やかや。」では、展覧会にちなみ岡本氏特別編集のタブロイド冊子「ART FOR ALL いい絵ってなんだ？」を発行し、書店等を通じ1,000部以上を売り上げた。また SNS 広告の導入により、ホームページのアクセス数が前年同期より76%増加し、またInstagramの新規フォロワー数も344増となるなど、広報効果があった。

ワークショップでは、目の見えない人と見える人がともに映像を鑑賞するオンライン・ワークショップ「エトセトラの時間 見えるものと見えないものを語る会」をシリーズ開催した。見える人、見えない人、聞こえない人等がともに無音の映像を鑑賞し対話する、文字通り多様性が包摂される場になった。

「どう？就活」、「対話の効能 〈わたし〉と〈あなた〉のあわい」は、一方通行のセミナーではなく、参加者同士の対話の中から参加者自身が新たな気づきを得るプログラムで、参加者から好評を得た。特に「対話の効能」は募集開始直後に満席となり追加席を発売するなど、事前の期待も高く、アンケートや SNS 投稿等からも高い評価をうかがい知ることができる。

施設管理面では引き続き経年劣化が進んでいる箇所の保全を行ったほか、1月にワクチン接種が終了した4階会場のメンテナンスを迅速に行い、2月以降は主催事業や一般利用を再開することができた。

(2)世田谷パブリックシアター

令和4年度も新型コロナウイルスの影響を大きく受ける中での事業展開となった。政府の感染症対策の方針も頻繁に変わる中、全国公立文化施設協会や緊急事態舞台芸術ネットワーク等を通じて情報収集を行って劇場独自の感染予防ガイドラインを的確に整備・更新し、劇場利用者が常に安心して事業実施・鑑賞をおこなうことができる環境を維持することに努めた。感染拡大期には、都内の劇場でも公演中止が相次いだ。劇場はもちろん稽古場や楽屋にも抗ウイルスコーティングを施し、関係者のPCR検査や抗原検査を入念に実施し、可能な公演においてはアンダースタディ(代役)を用意するなど、できる限りの感染症対策を行ったうえで事業を実施した。その結果、主催公演事業で中止になったものがなかったことは、それ自体が特筆すべき成果であったと思われる。

観客動員については、主劇場・シアタートラム両劇場の年間入場者総数は133,281人となった。新型コロナウイルスの影響により公演中止が相次いだ令和2年度(65,418人)、緊急事態宣言の発出により収容

率が50%に制限された公演も多かった令和3年度(88,828人)に比べて大幅に持ち直し、ほぼコロナ以前の水準に回復した。「国内演劇創作事業」、「こどもプロジェクト」、「海外招聘・国際共同制作」はいずれも当初計画を上回る観客数を達成することができた。しかしながら、これは先述のとおり公演中止がなかったから達成できた数字であり、薄氷を踏む思いで事業を継続したことは間違いない。

こうした中で制作した作品群が極めて高い評価を得たことも特筆される。『毛皮のヴィーナス』等の演出により五戸真理枝が第30回読売演劇大賞最優秀演出家賞を受賞。同作品の美術を担当した長田佳代子が同優秀スタッフ賞を受賞した。また『建築家とアッシリア皇帝』における演技等により、成河が第57回紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞した。

普及啓発・人材育成事業では、「コミュニティプログラム」「学校とその他区内施設との連携プログラム」「研究育成プログラム」の3つの柱により、通年でワークショップ・レクチャー・研究会を実施しているが、こちらも引き続き新型コロナウイルスの影響を受けたものの、ほぼ予定通り実施することができた。

長期休暇期間を中心としたこどものためのワークショップも、実施中の密を回避するため、募集人数を通常の半数程度に絞り、身体的な接触を避けた内容で実施した。そのような中でも、各回とも参加申し込みが多く、事業への高いニーズが改めて確認された。

その一方で、「コロナ後」を見据えた試みを少しずつ始めることができたのも令和4年度の特筆すべき動きである。「移動劇場@ホーム公演」は前年度に引き続きDVDの作成・配付をおこなったが、一部施設での訪問上演を再開することができた。また、2年間休止していた「舞台芸術のクリティック」も再開することができ、昨年度はトークのみオンラインでの開催としていた「世田谷パブリックシアターダンス食堂」事業もワークショップを再開してコロナ前の状態に戻すことができた。

令和5年度には、新型コロナウイルスの分類が2類から5類に変更されとの発表もあり、「コロナ後」に向けて本格的に舵を切っていくことになると思われる。感染症の脅威がなくなったわけではないことに十分に留意しつつ、令和4年度に就任した白井晃芸術監督のリーダーシップのもと、国内外の公共劇場や民間の実演団体などと積極的に連携して、作品創造及び人材交流の活性化、普及啓発・人材育成事業の充実、多様な料金設定、バリアフリー対応の充実による鑑賞機会の拡充および多言語による情報発信、新たな観客の育成等、時代の流れを的確に捉えながら、事業を展開していく。

(3)音楽事業部(せたおん)

新型コロナウイルスの影響が残る中ではあったが、新しい日常をめざし、一步踏み出した。

第一に、新たな観客との出会いを求めて、新たな試みを行った。働き盛りの世代に向けた「ミュージック・ラウンジ」を始めた。仕事帰りにリラックスして音楽を楽しんでもらうことを企図し、演奏内容だけでなく、会場の雰囲気づくりも工夫した。趣向を変え、2企画行ったが、確かな手応えを感じることができた。『まちなかコンサート』は内容を一新。無料で、短時間、親しみやすい空気は保ちながら、有料の演奏会に準じる、きちんとした音楽会に変身させた。テーマを変え、区内3か所で開催して、評判を呼んだ。また、「音楽講座」を始めた。公演に因んで理解を深めるレクチャーや、音楽の楽しさを語ってもらうトークイベントなど、違った角度から音楽の魅力を伝えることができた。

第二に、区民参加型の事業を再開した。『せたがやアカペラバトル』を開催。新型コロナウイルスの影響で予選を行えず、決勝大会のみの開催だったが、幅広い年齢の人たちが参加した。参加者のみならず、観客や審査員からもたいへん好評だった。「学校への訪問企画」も再開。『まちなかコンサート』を中学生向けにアレンジし、体育館を埋めた生徒たちに、クラシック音楽のエッセンスを伝えた。世田谷フィルハーモニー管弦楽団と世田谷区民合唱団による『せたがや名曲コンサート』の4年ぶりの開催も、両団メンバーはもちろん、待っていた愛好家にも喜びとなった。

第三に、おなじみの企画を充実させた。「世田谷アーティスト支援企画『Discovery Setagaya Sounds』」は、エリック・ミヤシロのオールスターズが、高いレベルの熱い演奏を聴かせた。宮川彬良スペシャル・プロデューサーの「せたがや音楽研究所」は、『マツケンサンバⅡ』を取り上げ、会場を盛り上げた。「室内楽シリーズ」では、『ハラダ タカシ オンド・マルトノ宇宙からの響き』と『三船優子&堀越彰 ピアノとドラムの饗演』という異色の演奏会2企画を成功させた。“気象と音楽”をテーマにした、池辺晋一郎音楽監督企画『異分野とのコラボレーション』は、急な会場変更を強いられたものの、予定通りの多彩な顔ぶれで、実現にこぎつけた。

そして、大きな制約を受けていた「せたがやジュニアオーケストラ」。苦境に耐え、念願の夏季合宿を実現するなど、地道に力をつけていった。東京フィルハーモニー交響楽団との連携も定着し、「定期演奏会」は、東京オペラシティ・コンサートホールという桧舞台で、渾身の演奏を聴かせた。

様々な事業を通じて、音楽を求める人たちの存在を日々実感させられた。生活に少しでも潤いを加えられるように、より近く、より広く、より深く、区民に向き合い、せたおんは歩みを進めていく。

(4)国際事業部

開設から3年目を迎えたせたがや国際交流センター(クロッシングせたがや)を、年間を通じて初めて臨時休館することなく運営することができた。

ロシアによるウクライナ侵攻開始を受け、区との共催、技術部の協力のもと、ウクライナ支援 映画「ひまわり」上映会を北沢タウンホールで開催した。また、「多文化理解講座」を7回開催したが、このうち2回は国連 UNHCR 協会、国連 WFP 協会から講師を招き、難民支援、食料支援をテーマとする講座とした。

外国人と日本人がやさしい日本語を使って交流する「にほんご交流会」と「やさしい日本語でまち歩き」は、それぞれ5回と1回開催した。このうち「にほんご交流会」は、テンプル大学ジャパンキャンパスにおいて、主にテンプル大学の学生と交流する「にほんご交流会 in テンプル大学」を季節毎に4回開催した。

また、昨年度は規模の縮小或いはオンライン配信による開催となった「国際交流 in セタがや」と「せたがや国際メッセ」も、それぞれ世田谷海外研修者の会、区の文化・国際課とともに開催することができた。

さらには、部の開設以降初めての子ども企画「子ども大使になってタンザニア大使館を訪問しよう」を実施することもできた。今後も、様々な人々が互いに理解し、地域で交流できる事業展開を進めていく。

(5)世田谷美術館

令和4年度は、事業報告のとおりコロナ禍のなかでも、感染症防止対策に配慮しつつ、時間あたりの観覧者数やイベントの参加数を絞るなどの様々な工夫を行い、少しずつ従来の形へと事業を拡げて実施することができた。企画展「ピーターラビット™展」、「絵本作家・わかやまけんの世界」展では、若い世代や乳幼児を含む親子連れなど、当初計画数を上回る来場者で賑わい、簡易の授乳室の増設やベットの用意し、乳幼児連れでも快適に展覧会を楽しめる環境に配慮した。「宮城壮太郎展」は、誰もが身近に使っている製品にもかかわらず、これまで、あまり一般には知られていなかったデザイナーの仕事を本格的に取り上げ、彼の仕事を世間に広く示す機会となった。「祈り・藤原新也」展では、社会的な問題意識の高い現役写真家の最近作までを紹介。作家自身によるトークイベントも行い、マスコミなどからも広く注目を浴び、予想を超える来場者が訪れた。当館の収蔵品を活用した「セタビの森の動物たち」展では、教育普及的な視点も加えて、地域の小学校と連携し、子どもたちの作品も展示したほか、来館者が参加できるコーナーの設置、またパフォーマンスやワークショップなど様々な関連企画を行い、人数は絞りながらもコロナ禍前の事業展開を取り戻してきた。毎年恒例だったさくら祭も、友の会会員やボランティアの協力で4年ぶりに再開した。

ミュージアム コレクションでは、「美術家たちの沿線物語」シリーズの第2弾として大井町線・目黒線・東横線を取り上げ、地域の文化的土壌の豊かさを紹介。「荒井良二のアールぶるっと！こんなに楽しい世田

谷美術館の収蔵品」では、荒井良二氏のユニークな観点で収蔵作品の新たな魅力を引き出すことができた。また音楽事業部と連携し、彼のライブも実施した。「それぞれのふたり 萩原朔美と榎本了壺」では、個性豊かな二人のそれぞれの世界を紹介し、バラエティに富んだトークイベントも開催した。

美術鑑賞教室はコロナ禍がまだ続く状況において、一般来場者へも配慮し、開始時間をずらして実施し、全校が来館することができた。成人講座「美術大学」も実技授業が再開され、ワークショップなどの事業も増やし、ボランティアの活動の場も回復した。また、新たな試みとして、若手アーティスト支援プログラムを立ち上げ、当館の環境や集う人などからアーティストが新たな表現の可能性を探る実験の場としてのアーティスト・イン・レジデンスを実施し、美術館のあり方の更なる可能性を拓けた。

広報では、展覧会のほか、イベントも SNS を活用して周知を行うほか、インスタグラムも新たに加え、継続的に配信を重ねフォロワー数を増やしている。

作品や資料の収集では、当館のこれまでの様々な活動の蓄積が築いた作家や遺族との関係から生まれる人との繋がり、また積極的な調査研究により、令和4年度も数多くの貴重な作品を当館へ寄贈していただいた。様々な事業を通じて、多くのボランティアや市民が当館の活動を支え、後世の人々と社会へ美術作品という文化資源を手渡す、美術館の大切な役割を果たすことができた。

(6)世田谷文学館

令和4年度は4月から開催した「ヨシタケシンスケ展かもしれない」が大好評を得た。本展は新型コロナウイルス対策の一環で事前予約システムを導入したが、会期全般にわたって完売となった。来館者の層も幅広く、多くの方に楽しんでいただくことができた。当館の今までの実績もあって、現在活躍中の作家の展覧会にも積極的に取り組んでいる館として認識されてきていることは喜ばしい。

また、秋から冬にかけては「萩原朔太郎展」を開催し、ゆかりの文学者の展覧会を同年に開催するといった、振り幅の広さを示すことができたと思う。さらに、「山下和美展」で、旬の話題をいち早く、しかもSDGsの観点も考慮した仕様で制作する〈シーズン展示〉を立ち上げることができたのも、今後の多様な展示活動への布石となった。

現在は、従来の展示方法や普及活動では伝えきれないことも多く、利用者が多種多様なコンテンツの中から、利用しやすいものを選んで受容するスタイルが主流のため、当館も多様性を常に打ち出し、来館者にとっていつも新鮮な存在でいることが、これからも「セタブン」として愛されるために求められるだろう。ラジオ、YouTubeなどのオンラインも駆使し、あらゆる媒体をとおして発信力を高める活動を今後も継続していきたい。

一方、実際に館を訪れて、展覧会や対面式のイベント、ワークショップに参加いただく経験にはやはり格別なものがある。本年度も日常的な安全面を含めて環境整備に取り組んできたが、「どうしても訪れたい」と思ってもらえる施設の魅力を維持することに、今後も力を尽くしていく。

そして、10万点以上の貴重な収蔵資料を活用する活動もこれまで以上に重要となる。これから研究が本格化する現代作家の資料を収蔵・保存する館の責務として、企画展やコレクション展で紹介していくことに加え、今後は資料集を刊行するなど、さまざまなプログラムを用いて発表していく。地道な作業の連続であるが、館の基盤となる業務を、引き続きしっかりと固めていきたい。

「セタブン」は地域の施設として環境に配慮しながら、存在自体が、まるごとまちの〈推し〉ポイント＝ランドマークとして認識されるような活動を今後も続けていきたい。

4. 重要な契約の概要

契約件名	契約年月日	相手方	契約の概要
世田谷区文化施設の管理運営に関する基本協定	令和4年4月1日	世田谷区長	1 (公財)せたがや文化財団は、世田谷区立世田谷美術館、世田谷区立世田谷文学館、世田谷区立世田谷文化生活情報センターの指定管理者として、世田谷区立世田谷美術館条例第18条、世田谷区立世田谷文学館条例第18条及び世田谷区立世田谷文化生活情報センター条例第20条の規定により、次に掲げる業務を行う。 (1)世田谷区立世田谷美術館 ① 美術館条例第2条第2号から第8号までに規定する事業に関する業務のうち、世田谷区が指定した業務 ② 美術館の利用の承認等に関する業務 ③ 美術館の施設及び施設の維持管理に関する業務 ④ その他、世田谷区が必要と認める業務 (2)世田谷区立世田谷文学館 ① 文学館条例第2条第2号から第7号までに規定する事業に関する業務のうち、世田谷区が指定した業務 ② 文学館の利用の承認等に関する業務 ③ 文学館の施設及び設備の維持管理に関する業務 ④ その他、世田谷区が必要と認める業務 (3)世田谷区立世田谷文化生活情報センター ① センター条例第2条各号に規定する事業に関する業務のうち、世田谷区が指定した業務 ② センターの利用の承認に関する業務のうち、世田谷区が指定する業務 ③ センターの施設及び設備の維持管理に関する業務 ④ その他、世田谷区が必要と認める業務 2 指定期間は令和4年4月1日から令和9年3月31日までの5年間とする。
世田谷区文化施設の管理に関する年度協定	令和4年4月1日	世田谷区長	1 (公財)せたがや文化財団は、世田谷区立世田谷美術館、世田谷区立世田谷文学館、世田谷区立世田谷文化生活情報センターの指定管理者として、世田谷区文化施設の管理運営に関する基本協定及び年度協定の仕様書に定める業務を行う。 2 協定期間は令和4年4月1日から令和5年3月31日までの1年間とする。

5. 登記事項

理事変更登記

令和4年4月15日 登記

令和4年3月31日付 理事変更(1名辞任)

令和4年4月 1日付 理事変更(1名就任)

監事変更登記

令和4年4月15日 登記

令和4年3月31日付 監事変更(1名辞任)

令和4年4月 1日付 監事変更(1名就任)

6. 理事会・評議員会開催状況

(1) 理事会

回	開催日	議案番号	件 名
第1回 定時 (オンライン併用)	令和4年 5月27日	議案第1号	令和3年度公益財団法人せたがや文化財団事業報告について
		議案第2号	令和3年度公益財団法人せたがや文化財団決算について
		議案第3号	令和4年度公益財団法人せたがや文化財団補正予算(第一次)について
		議案第4号	令和4年度公益財団法人せたがや文化財団第1回評議員会(定時)の招集について
		報告事項	公益財団法人せたがや文化財団理事長及び常務理事の職務執行状況について
			公益財団法人せたがや文化財団人材活用計画及び世田谷パブリックシアター劇場経営に関する基本方針の評価・点検について
			公益財団法人せたがや文化財団女性活躍推進行動計画の策定について
			ウクライナ支援 映画「ひまわり」上映会の実施について
第2回 定時 (オンライン併用)	令和5年 2月22日	議案第5号	令和4年度公益財団法人せたがや文化財団補正予算(第二次)について
		議案第6号	令和5年度公益財団法人せたがや文化財団事業計画及び収支予算並びに資金調達及び設備投資の見込みについて
		議案第7号	公益財団法人せたがや文化財団総合職員給与規程の一部改正について
		議案第8号	公益財団法人せたがや文化財団専門職員給与規程の一部改正について
		議案第9号	公益財団法人せたがや文化財団職員退職手当支給規程の一部改正について
		議案第10号	公益財団法人せたがや文化財団総合職員就業規程の一部改正について
		議案第11号	公益財団法人せたがや文化財団個人情報保護規程の一部改正について
		議案第12号	令和4年度公益財団法人せたがや文化財団第2回評議員会(臨時)の招集について

		報告事項	公益財団法人せたがや文化財団個人情報保護方針の改定について
			公益財団法人せたがや文化財団コンプライアンス方針の策定について
			公益財団法人せたがや文化財団次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の策定について
			公益財団法人せたがや文化財団人材活用計画及び世田谷パブリックシアター劇場経営に関する基本方針の評価・点検について(中間報告)
			公益財団法人せたがや文化財団理事長、常務理事の職務執行状況について
第3回 臨時 (書面開催)	令和5年 3月24日	議案第13号	令和4年度公益財団法人せたがや文化財団補正予算(第三次)について
		議案第14号	令和4年度公益財団法人せたがや文化財団第3回評議員会(臨時)の招集について
第4回 臨時 (書面開催)	令和5年 3月30日	議案第15号	公益財団法人せたがや文化財団事務局長の任免について
		議案第16号	公益財団法人せたがや文化財団常務理事の選定について

(2) 評議員会

回	開催日	議案番号	件 名
第 1 回 定時 (オンライン併用)	令和 4 年 6 月 24 日	議案第 1 号	令和3年度公益財団法人せたがや文化財団事業報告について
		議案第 2 号	令和3年度公益財団法人せたがや文化財団決算について
		議案第 3 号	令和4年度公益財団法人せたがや文化財団補正予算(第一次)について
		報告事項	公益財団法人せたがや文化財団人材活用計画及び世田谷パブリックシアター劇場経営に関する基本方針の評価・点検について
			公益財団法人せたがや文化財団女性活躍推進行動計画の策定について
			ウクライナ支援 映画「ひまわり」上映会の実施について
第 2 回 臨時 (オンライン併用)	令和 5 年 3 月 16 日	議案第 4 号	令和4年度公益財団法人せたがや文化財団補正予算(第二次)について
		議案第 5 号	令和5年度公益財団法人せたがや文化財団事業計画及び収支予算並びに資金調達及び設備投資の見込みについて
		報告事項	公益財団法人せたがや文化財団総合職員給与規程の一部改正について
			公益財団法人せたがや文化財団専門職員給与規程の一部改正について
			公益財団法人せたがや文化財団職員退職手当支給規程の一部改正について
			公益財団法人せたがや文化財団総合職員就業規程の一部改正について
			公益財団法人せたがや文化財団個人情報保護規程の一部改正について
			公益財団法人せたがや文化財団個人情報保護方針の改定について
			公益財団法人せたがや文化財団コンプライアンス方針の策定について
			公益財団法人せたがや文化財団次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の策定について
			公益財団法人せたがや文化財団人材活用計画及び世田谷パブリックシアター劇場経営に関する基本方針の評価・点検について(中間報告)
第 3 回 臨時 (書面開催)	令和 5 年 3 月 28 日	議案第 6 号	令和4年度公益財団法人せたがや文化財団補正予算(第三次)について
		議案第 7 号	公益財団法人せたがや文化財団理事の選任について

7. 役員名簿

(令和 5 年 3 月 31 日現在)

【理事:11 名】

【任期:令和 3 年 6 月 18 日から令和 5 年度定時評議員会の終結の時まで】

役職名	氏 名	備 考
理 事 長	青 柳 正 規	公益財団法人せたがや文化財団 理事長
常務理事	高 萩 宏	公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文化生活情報センター館長
常務理事	酒 井 忠 康	公益財団法人せたがや文化財団 世田谷美術館館長
常務理事	亀 山 郁 夫	公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館館長
常務理事	松 下 洋 章	公益財団法人せたがや文化財団 事務局長
理 事	江 國 香 織	小説家
理 事	熊 谷 吏 夏	弁護士
理 事	桑 島 俊 彦	東京都商店街振興組合連合会理事長
理 事	武 濤 京 子	昭和音楽大学名誉教授・客員教授
理 事	名 児 耶 明	元公益財団法人五島美術館副館長 筆の里工房副館長
理 事	板 東 久 美 子	前日本司法支援センター理事長

【監事:2 名】

【任期:令和元年 6 月 18 日から令和 5 年度定時評議員会の終結の時まで】

監 事	鈴 木 重 雄	公認会計士・税理士
監 事	太 田 一 郎	世田谷区会計管理者

8. 評議員名簿

(令和 5 年 3 月 31 日現在)

【評議員:11 名】

【任期:令和元年 6 月 18 日から令和 5 年度定時評議員会の終結の時まで】

氏 名	備 考
秋 山 光 文	お茶の水女子大学名誉教授・目黒区美術館館長
朝 生 公 章	区内企業代表
上 田 啓 子	世田谷区町会総連合会副会長
大 笹 吉 雄	演劇評論家
木 村 慶 子	医学博士・前慶應義塾大学教授
佐々木 健二	弁護士
島 田 成 年	東京商工会議所世田谷支部副会長
田 村 哲 夫	学校法人渋谷教育学園理事長・学校法人青葉学園理事長
丹 治 誠	元日本銀行理事
丹 羽 正 明	音楽評論家
萩 原 朔 美	多摩美術大学名誉教授・前橋文学館館長

9. 財団幹部名簿

(令和5年3月31日現在)

職 務 名	氏 名	備 考
理事長	青 柳 正 規	
事務局長	松 下 洋 章	常務理事
統括部長	山 田 実	
世田谷文化生活情報センター館長	高 萩 宏	常務理事
副館長	志 賀 毅 一	
総務部長	志 賀 毅 一	副館長事務取扱
生活工房室長	岩 船 弘 美	
劇場部長	小 林 千 洋	
技術部長	熊 谷 明 人	
音楽事業部長	蓑 輪 勇 二	
国際事業部長	山 田 実	事務局統括部長兼務
世田谷美術館館長	酒 井 忠 康	常務理事
副館長	橋 本 善 八	
総務部長	橋 本 善 八	副館長事務取扱
学芸部長	村 上 由 美	
世田谷文学館館長	亀 山 郁 夫	常務理事
副館長	花 房 千 里	
総務部長	花 房 千 里	副館長事務取扱
学芸部長	中 垣 理 子	

芸術監督	白 井 晃	
音楽監督	池 辺 晋 一 郎	

財 務 諸 表

1. 貸借対照表

(令和5年3月31日現在)

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
①現金預貯金	656,930,131	576,000,237	80,929,894
②未収入金	179,845,815	179,132,140	713,675
③商品	36,149,450	31,100,663	5,048,787
④貯蔵品	394,935	471,156	△ 76,221
⑥前払金	4,600,096	5,642,751	△ 1,042,655
⑦立替金	0	660,628	△ 660,628
流 動 資 産 合 計	910,929,227	793,007,575	117,921,652
2. 固定資産			
(1)基本財産			
①国公債	751,082,696	652,317,086	98,765,610
②預貯金	48,917,304	147,682,914	△ 98,765,610
基 本 財 産 合 計	800,000,000	800,000,000	0
(2)特定資産			
①退職給付引当資産	267,796,451	260,554,317	7,242,134
②使途指定寄付積立資産	8,172,166	6,466,000	1,706,166
特 定 資 産 合 計	275,968,617	267,020,317	8,948,300
(3)その他の固定資産			
①建物附属設備	77,299,489	68,074,174	9,225,315
減価償却累計額	△ 40,333,766	△ 33,384,922	△ 6,948,844
②器具備品	149,107,598	136,820,877	12,286,721
減価償却累計額	△ 104,370,145	△ 90,117,372	△ 14,252,773
③リース資産	96,766,492	91,486,492	5,280,000
減価償却累計額	△ 52,267,353	△ 33,047,347	△ 19,220,006
④ソフトウェア	8,790,585	12,124,502	△ 3,333,917
⑤保証金等	60,000	60,000	0
⑥大規模事業等実施積立金	31,500,000	31,500,000	0
⑦経営安定化積立金	215,000,000	215,000,000	0
⑧事故対策積立金	90,000,000	90,000,000	0
そ の 他 の 固 定 資 産 合 計	471,552,900	488,516,404	△ 16,963,504
固 定 資 産 合 計	1,547,521,517	1,555,536,721	△ 8,015,204
資 産 合 計	2,458,450,744	2,348,544,296	109,906,448
II 負債の部			
1. 流動負債			
①未払金	279,249,518	245,073,957	34,175,561
②前受金	26,075,620	25,816,700	258,920
③預り金	149,872,058	144,482,728	5,389,330
④賞与引当金	32,545,726	29,141,760	3,403,966
⑤リース債務	20,154,262	18,832,001	1,322,261
流 動 負 債 合 計	507,897,184	463,347,146	44,550,038
2. 固定負債			
①退職給付引当金	267,796,451	260,554,317	7,242,134
②リース債務	25,947,130	40,932,159	△ 14,985,029
③長期前受金	2,273,060	1,233,280	1,039,780
固 定 負 債 合 計	296,016,641	302,719,756	△ 6,703,115
負 債 合 計	803,913,825	766,066,902	37,846,923
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
①受取寄附金	8,172,166	6,466,000	1,706,166
②世田谷区出捐金	800,000,000	800,000,000	0
指定正味財産合計	808,172,166	806,466,000	1,706,166
(うち基本財産への充当額)	(800,000,000)	(800,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(8,172,166)	(6,466,000)	(1,706,166)
2. 一般正味財産	846,364,753	776,011,394	70,353,359
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
正 味 財 産 合 計	1,654,536,919	1,582,477,394	72,059,525
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	2,458,450,744	2,348,544,296	109,906,448

2. 損益計算書(正味財産増減計算書)

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

(単位:円)

科 目		当年度	前年度	増 減
I	一般正味財産の部			
1	経常増減の部			
	(1) 経常収益			
	基本財産運用益	2,869,012	2,619,073	249,939
	基本財産運用益	2,869,012	2,619,073	249,939
	特定資産運用益	680,783	764,812	△ 84,029
	特定資産運用益	680,783	764,812	△ 84,029
	事業収益	1,353,162,455	1,168,171,120	184,991,335
	事業運営収益	781,560,695	608,528,324	173,032,371
	区事業等受託収益	571,601,760	559,642,796	11,958,964
	受取区補助金	1,237,741,000	1,192,463,000	45,278,000
	受取区補助金	1,237,741,000	1,192,463,000	45,278,000
	受取助成金等	114,563,812	162,823,479	△ 48,259,667
	受取助成金等	114,563,812	162,823,479	△ 48,259,667
	受取寄附金	0	466,985	△ 466,985
	受取寄附金	0	466,985	△ 466,985
	受取負担金	13,903,762	15,058,823	△ 1,155,061
	受取負担金	13,903,762	15,058,823	△ 1,155,061
	雑収益	346,428	362,152	△ 15,724
	雑収益	223,841	242,889	△ 19,048
	受取利息	122,587	119,263	3,324
	経 常 収 益 計	2,723,267,252	2,542,729,444	180,537,808
	(2) 経常費用			
	事業費	2,646,145,123	2,511,196,279	134,948,844
	給料手当等	774,540,966	762,821,746	11,719,220
	賞与引当金繰入	32,531,539	29,079,416	3,452,123
	退職給付費用	31,334,237	29,298,815	2,035,422
	交際費	344,084	278,776	65,308
	式典費	82,008	0	82,008
	会議費	85,391	144,561	△ 59,170
	旅費交通費	4,313,968	2,666,428	1,647,540
	通信運搬費	8,653,213	8,940,638	△ 287,425
	消耗経費	45,500,970	34,593,291	10,907,679
	印刷製本費	41,214,367	33,297,675	7,916,692
	保険料	3,802,432	3,706,290	96,142
	修繕費	19,170,122	17,499,597	1,670,525
	光熱水費	11,774,219	8,161,180	3,613,039
	諸謝金	37,296,892	33,302,315	3,994,577
	支払負担金	24,975,483	83,175,034	△ 58,199,551
	委託費	838,528,331	763,062,736	75,465,595
	使用料及び賃借料	47,460,034	40,834,848	6,625,186

(単位：円)

科 目		当年度	前年度	増 減
	支払手数料	28,890,968	20,255,537	8,635,431
	広報宣伝費	92,020,938	57,883,063	34,137,875
	臨時雇賃金	79,209,199	71,916,124	7,293,075
	租税公課	25,744,846	19,919,570	5,825,276
	上演出演料	249,907,749	244,618,417	5,289,332
	舞台費	130,884,691	129,466,944	1,417,747
	制作企画費	65,866,478	72,505,304	△ 6,638,826
	商品仕入	5,005,077	2,123,992	2,881,085
	減価償却費	45,100,431	39,905,335	5,195,096
	支払利息（リース債務）	1,903,992	1,735,747	168,245
	雑費	2,498	2,900	△ 402
	管理費	5,942,692	7,424,626	△ 1,481,934
	役員報酬	4,957,635	4,638,237	319,398
	給料手当等	506,642	1,511,973	△ 1,005,331
	賞与引当金繰入	14,187	62,344	△ 48,157
	退職給付費用	14,093	56,031	△ 41,938
	通信運搬費	58,306	83,654	△ 25,348
	消耗経費	3,770	172,125	△ 168,355
	保険料	14,750	15,980	△ 1,230
	委託費	237,600	178,200	59,400
	減価償却費	135,709	705,782	△ 570,073
	租税公課	0	300	△ 300
	経 常 費 用 計	2,652,087,815	2,518,620,905	133,466,910
	当期経常増減額	71,179,437	24,108,539	47,070,898
2	経常外増減の部			
(1)	経常外収益			
	経 常 外 収 益 計	0	0	0
(2)	経常外費用			
	流動資産除却損	39,378	4,963	34,415
	流動資産除却損	39,378	4,963	34,415
	商品除却損	39,378	4,963	34,415
	固定資産除却損	0	1	△ 1
	固定資産除却損	0	1	△ 1
	固定資産除却損	0	1	△ 1
	経 常 外 費 用 計	39,378	4,964	34,414
	当期経常外増減額	△ 39,378	△ 4,964	△ 34,414
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	71,140,059	24,103,575	47,036,484
	法人税、都民税及び事業税	786,700	140,000	646,700
	当期一般正味財産増減額	70,353,359	23,963,575	46,389,784
	一般正味財産期首残高	776,011,394	752,047,819	23,963,575
	一般正味財産期末残高	846,364,753	776,011,394	70,353,359

(単位：円)

科 目		当年度	前年度	増 減
Ⅱ	指定正味財産の部			
	受取寄附金	1,706,166	622,000	1,084,166
	基本財産運用益	2,869,012	2,619,073	249,939
	特定資産受取利息	65	0	65
	一般正味財産への振替額	2,869,077	2,619,073	250,004
	当期指定正味財産増減額	1,706,166	622,000	1,084,166
	指定正味財産期首残高	806,466,000	805,844,000	622,000
	指定正味財産期末残高	808,172,166	806,466,000	1,706,166
Ⅲ	正味財産期末残高	1,654,536,919	1,582,477,394	72,059,525

(1)損益計算書(正味財産増減計算書) 内訳表

科 目		公益目的事業会計		
		公1	公2	小計
		文化芸術の振興、地域文化創造活動の支援及び教育普及に関する事業	市民活動の支援及び振興に関する事業	
I	一般正味財産の部			
1	経常増減の部			
	(1) 経常収益			
	基本財産運用益	0	0	0
	基本財産運用益	0	0	0
	基本財産運用益	0	0	0
	特定資産運用益	680,783	0	680,783
	特定資産運用益	680,783	0	680,783
	特定資産運用益	680,783	0	680,783
	事業収益	1,292,367,613	641,100	1,293,008,713
	事業運営収益	720,765,853	641,100	721,406,953
	事業運営収益	720,765,853	641,100	721,406,953
	区事業等受託収益	571,601,760	0	571,601,760
	指定管理受託収益	505,151,000	0	505,151,000
	区事業受託収益	66,450,760	0	66,450,760
	受取区補助金	1,189,446,000	48,295,000	1,237,741,000
	受取区補助金	1,189,446,000	48,295,000	1,237,741,000
	受取区補助金	1,189,446,000	48,295,000	1,237,741,000
	受取助成金等	114,563,812	0	114,563,812
	受取助成金等	114,563,812	0	114,563,812
	受取助成金	114,563,812	0	114,563,812
	受取負担金	6,355,991	0	6,355,991
	受取負担金	6,355,991	0	6,355,991
	受取負担金	6,355,991	0	6,355,991
	雑収益	345,828	0	345,828
	雑収益	223,241	0	223,241
	雑収益	223,241	0	223,241
	受取利息	122,587	0	122,587
	受取利息	122,587	0	122,587
	経常収益計	2,603,760,027	48,936,100	2,652,696,127

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

(単位:円)

収益事業等会計			法人会計	内部取引等 消去	合計
収1	収2	小計			
物品販売事業	飲食物提供事業				
0	0	0	2,869,012		2,869,012
0	0	0	2,869,012		2,869,012
0	0	0	2,869,012		2,869,012
0	0	0	0		680,783
0	0	0	0		680,783
0	0	0	0		680,783
57,062,576	3,091,166	60,153,742	0		1,353,162,455
57,062,576	3,091,166	60,153,742	0		781,560,695
57,062,576	3,091,166	60,153,742	0		781,560,695
0	0	0	0		571,601,760
0	0	0	0		505,151,000
0	0	0	0		66,450,760
0	0	0	0		1,237,741,000
0	0	0	0		1,237,741,000
0	0	0	0		1,237,741,000
0	0	0	0		114,563,812
0	0	0	0		114,563,812
0	0	0	0		114,563,812
438,771	7,109,000	7,547,771	0		13,903,762
438,771	7,109,000	7,547,771	0		13,903,762
438,771	7,109,000	7,547,771	0		13,903,762
600	0	600	0		346,428
600	0	600	0		223,841
600	0	600	0		223,841
0	0	0	0		122,587
0	0	0	0		122,587
57,501,947	10,200,166	67,702,113	2,869,012	0	2,723,267,252

科 目		公益目的事業会計		
		公1	公2	小計
		文化芸術の振興、地域文化創造活動の支援及び教育普及に関する事業	市民活動の支援及び振興に関する事業	
	(2) 経常費用			
	事業費	2,584,183,377	29,197,012	2,613,380,389
	給料手当等	760,433,670	13,093,960	773,527,630
	賞与引当金繰入	31,817,140	665,532	32,482,672
	退職給付費用	31,232,350	49,730	31,282,080
	交際費	338,684	5,400	344,084
	式典費	82,008	0	82,008
	会議費	85,391	0	85,391
	旅費交通費	4,311,848	2,120	4,313,968
	通信運搬費	7,834,577	115,254	7,949,831
	消耗経費	43,311,456	610,136	43,921,592
	印刷製本費	41,132,231	73,286	41,205,517
	保険料	3,767,851	34,581	3,802,432
	修繕費	19,170,122	0	19,170,122
	光熱水費	4,358,146	0	4,358,146
	諸謝金	36,993,697	303,195	37,296,892
	支払負担金	24,943,483	32,000	24,975,483
	委託費	819,265,468	10,589,548	829,855,016
	使用料及び賃借料	43,293,173	1,808,182	45,101,355
	支払手数料	24,706,586	7,796	24,714,382
	広報宣伝費	91,826,834	22,504	91,849,338
	臨時雇賃金	77,933,444	1,275,755	79,209,199
	租税公課	24,560,291	5,245	24,565,536
	上演出演料	249,907,749	0	249,907,749
	舞台費	130,884,691	0	130,884,691
	制作企画費	65,861,288	5,190	65,866,478
	商品仕入	31,500	0	31,500
	減価償却費	44,195,707	497,598	44,693,305
	支払利息（リース債務）	1,903,992	0	1,903,992
	雑費	0	0	0

(単位:円)

収益事業等会計			法人会計	内部取引等 消去	合計
収1	収2	小計			
物品販売事業	飲食物提供事業				
25,021,628	7,743,106	32,764,734			2,646,145,123
834,069	179,267	1,013,336			774,540,966
38,828	10,039	48,867			32,531,539
41,089	11,068	52,157			31,334,237
0	0	0			344,084
0	0	0			82,008
0	0	0			85,391
0	0	0			4,313,968
597,782	105,600	703,382			8,653,213
1,579,378	0	1,579,378			45,500,970
8,850	0	8,850			41,214,367
0	0	0			3,802,432
0	0	0			19,170,122
307,518	7,108,555	7,416,073			11,774,219
0	0	0			37,296,892
0	0	0			24,975,483
8,673,315	0	8,673,315			838,528,331
2,298,252	60,427	2,358,679			47,460,034
4,176,586	0	4,176,586			28,890,968
171,600	0	171,600			92,020,938
0	0	0			79,209,199
1,001,633	177,677	1,179,310			25,744,846
0	0	0			249,907,749
0	0	0			130,884,691
0	0	0			65,866,478
4,973,577	0	4,973,577			5,005,077
316,653	90,473	407,126			45,100,431
0	0	0			1,903,992
2,498	0	2,498			2,498

科 目			公益目的事業会計		
			公1	公2	小計
			文化芸術の振興、地域文化創造活動の支援及び教育普及に関する事業	市民活動の支援及び振興に関する事業	
	管理費				
	役員報酬				
	給料手当等				
	賞与引当金繰入				
	退職給付費用				
	通信運搬費				
	消耗経費				
	保険料				
	委託費				
	減価償却費				
	経 常 費 用 計		2,584,183,377	29,197,012	2,613,380,389
	当期経常増減額		19,576,650	19,739,088	39,315,738
2	経常外増減の部				
	(1) 経常外収益				
	経 常 外 収 益 計		0	0	0
	(2) 経常外費用				
	流動資産除却損		39,378	0	39,378
	流動資産除却損		39,378	0	39,378
	商品除却損		39,378	0	39,378
	経 常 外 費 用 計		39,378	0	39,378
	当期経常外増減額		△ 39,378	0	△ 39,378
	他会計振替前当期一般正味財産増減額		19,537,272	19,739,088	39,276,360
	他会計振替額		17,431,899	0	17,431,899
	法人税、都民税及び事業税		0	0	0
	当期一般正味財産増減額		36,969,171	19,739,088	56,708,259
	一般正味財産期首残高		630,262,702	8,075,518	638,338,220
	一般正味財産期末残高		667,231,873	27,814,606	695,046,479
II	指定正味財産の部				
	受取寄附金		1,706,166	0	1,706,166
	基本財産運用益		0	0	0
	特定資産受取利息		65	0	65
	一般正味財産への振替額		65	0	65
	当期指定正味財産増減額		1,706,166	0	1,706,166
	指定正味財産期首残高		6,466,000	0	6,466,000
	指定正味財産期末残高		8,172,166	0	8,172,166
III	正味財産期末残高		675,404,039	27,814,606	703,218,645

(単位:円)

収益事業等会計			法人会計	内部取引等 消去	合計
収1	収2	小計			
物品販売事業	飲食物提供事業				
			5,942,692		5,942,692
			4,957,635		4,957,635
			506,642		506,642
			14,187		14,187
			14,093		14,093
			58,306		58,306
			3,770		3,770
			14,750		14,750
			237,600		237,600
			135,709		135,709
25,021,628	7,743,106	32,764,734	5,942,692	0	2,652,087,815
32,480,319	2,457,060	34,937,379	△ 3,073,680	0	71,179,437
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0		39,378
0	0	0	0		39,378
0	0	0	0		39,378
0	0	0	0	0	39,378
0	0	0	0	0	△ 39,378
32,480,319	2,457,060	34,937,379	△ 3,073,680	0	71,140,059
△ 16,205,956	△ 1,225,943	△ 17,431,899	0		0
731,373	55,327	786,700	0		786,700
15,542,990	1,175,790	16,718,780	△ 3,073,680	0	70,353,359
121,546,077	14,364,948	135,911,025	1,762,149	0	776,011,394
137,089,067	15,540,738	152,629,805	△ 1,311,531	0	846,364,753
0	0	0	0		1,706,166
0	0	0	2,869,012		2,869,012
0	0	0	0		65
0	0	0	2,869,012	0	2,869,077
0	0	0	0	0	1,706,166
0	0	0	800,000,000	0	806,466,000
0	0	0	800,000,000	0	808,172,166
137,089,067	15,540,738	152,629,805	798,688,469	0	1,654,536,919

財務諸表に対する注記

1. 継続組織の前提に関する注記

該当なし。

2. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券については、取得価額と債券金額の差が金利の調整と認められるため償却原価法を採用している。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品については、最終仕入原価法を採用している。

(3) 固定資産の評価方法

有形固定資産については定額法により減価償却を実施している。

無形固定資産については定額法により減価償却を実施している。

(4) 引当金の計上基準

退職給付引当金については、職員に対する退職給付金の支給に備えるため、職員退職手当支給規程に基づく期末要支給額を計上している。

賞与引当金については、職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

(5) リース取引の処理方法

平成20年4月以降の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、「リース取引に関する会計基準」等を適用し、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理から通常の売買取引にかかる方法に準じた会計処理に変更し、リース資産として計上している。

また、リース資産の減価償却の方法は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。

(6) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税込み方式によっている。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
国 公 債	652,317,086	99,853,375	1,087,765	751,082,696
定 期 預 貯 金	130,000,000	0	100,000,000	30,000,000
普 通 預 金	17,682,914	1,234,390	0	18,917,304
小 計	800,000,000	101,087,765	101,087,765	800,000,000
特定資産				
退 職 給 付 引 当 資 産	260,554,317	29,294,249	22,052,115	267,796,451
使途指定寄附積立資産	6,466,000	1,706,166	0	8,172,166
小 計	267,020,317	31,000,415	22,052,115	275,968,617
合 計	1,067,020,317	132,088,180	123,139,880	1,075,968,617

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
国 公 債	751,082,696	(751,082,696)	—	—
定 期 預 貯 金	30,000,000	(30,000,000)	—	—
普 通 預 金	18,917,304	(18,917,304)	—	—
小 計	800,000,000	(800,000,000)	—	—
特定資産				
退 職 給 付 引 当 資 産	267,796,451	—	—	(267,796,451)
使途指定寄附積立資産	8,172,166	(8,172,166)	—	—
小 計	275,968,617	(8,172,166)	—	(267,796,451)
合 計	1,075,968,617	(808,172,166)	—	(267,796,451)

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	帳 簿 価 額	時 価	評 価 損 益
平成 25 年度第 4 回静岡県公募公債	146,006,370	146,277,400	271,030
第 741 回東京都公募公債	100,000,000	100,762,200	762,200
第 116 回名古屋高速道路債券	105,222,951	105,132,000	△ 90,951
第 138 回名古屋高速道路債券	100,000,000	99,450,000	△ 550,000

科 目	帳 簿 価 額	時 価	評 価 損 益
第 155 回名古屋高速道路債券	200,000,000	193,780,000	△ 6,220,000
令和 4 年度第 2 回大分県公募公債	99,853,375	98,760,000	△ 1,093,375
第 374 回大阪府公募公債	10,025,932	10,029,000	3,068
第 481 回大阪府公募公債	100,000,000	98,550,000	△ 1,450,000
第 236 回共同発行市場公募地方債	49,953,670	49,395,000	△ 558,670
合 計	911,062,298	902,135,600	△ 8,926,698

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補 助 金 等 の 名 称	交 付 者	前 期 末 残 高	当 期 増 加 額	当 期 減 少 額	当 期 末 残 高	貸借対照表 上の 記載区分
令和 4 年度 世田谷区補助金	世田谷区	0	1,237,741,000	1,237,741,000	0	
文化芸術振興費補助金 (劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)	独立行政法人 日本芸術文化振興会	0	62,530,000	62,530,000	0	
芸術文化振興費補助金 (コロナ禍からの文化 芸術活動の再興支援事業)	文化庁	0	25,000,000	25,000,000	0	
文化資源活用事業費補助金(日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業)		0	7,281,000	7,281,000		
文化芸術振興費補助金 (文化施設の活動継続・ 発展等支援事業)		0	3,776,000	3,776,000	0	
地域部活動推進事業及び地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業		0	1,500,000	1,500,000	0	
地域の文化・芸術活動助成事業	一般財団法人 地域創造	0	1,200,000	1,200,000	0	
民間助成金	24 件	0	13,276,812	13,276,812	0	
合 計		0	1,352,304,812	1,352,304,812	0	

7. 関連当事者との取引の内容

関連当事者との取引の内容は、次のとおりである。

(単位:円)

属性	法人等の名称	住所	資産総額	事業の内容 又は職業	議決権の 所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	科目	期末
						役員	事業				
基本財産の出資	世田谷区	東京都世田谷区	—	・ 公益財団法人せたがや文化財団に対する補助金交付	—	—	補助金事業の委託	財政支援	1,237,741,000	受取補助金等	0
				・ 世田谷区文化施設の管理運営に関する基本協定			業務委託	指定管理	505,151,000	区受託事業収益	0
				・ 事業の業務委託等			業務委託	事業の業務委託、実施委託	66,450,760	区受託事業収益	0

8. 指定正味財産から一般正味財産への振替額

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 訳	金 額
経常収益への振替額	
基本財産受取利息	2,869,012
特定資産受取利息	65
合 計	2,869,077

9. その他

平成23年4月1日に公益財団法人に移行している。

3. 附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産については、財務諸表の注記3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高に記載をしているため、記載を省略する。

2. 引当金の明細

賞与引当金

(単位:円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	29,141,760	32,545,726	29,141,760		32,545,726

退職給付引当金

(単位:円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	260,554,317	29,294,249	22,052,115		267,796,451

4. 財産目録

(令和5年3月31日現在)

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現金	手元保管	運転資金として	6,716,182
	預貯金	三菱UFJ銀行三軒茶屋支店	運転資金として	377,108,831
		三菱UFJ銀行世田谷支店		3,696,618
		三菱UFJ銀行成城支店		887,454
		みずほ銀行世田谷支店		20,165,388
		三井住友銀行自由が丘支店		37,634,026
		昭和信用金庫本店		122,121
		昭和信用金庫三軒茶屋支店		564,934
		世田谷信用金庫用賀支店		87,661,603
		世田谷信用金庫駒沢支店		3,584,409
		世田谷信用金庫烏山支店		2,858,106
		世田谷桜丘三郵便局		985,654
東京中央農協千歳支店		10,670,232		
世田谷目黒農協本店		104,008,968		
ゆうちょ銀行	265,605			
未収入金		区受託料、助成金、チケット収入など	179,845,815	
商品	各館ショップ等	ミュージアムショップ等の商品	36,149,450	
貯蔵品	手元保管	収入印紙、郵券等	394,935	
繰延事業費	会計・勤怠管理システム	将来に効果が及ぶ費用の繰延	33,008,800	
前払金		翌年度諸経費等	4,600,096	
流動資産合計				910,929,227
(固定資産) 基本財産	投資有価証券	平成25年度第4回静岡県公募公第741回東京都公募公債 第116回名古屋高速道路債券 第138回名古屋高速道路債券 第155回名古屋高速道路債券 令和4年度第2回大分県公募公	公益目的保有財産であり、運用益を管理費の財源として使用している	146,006,370
				100,000,000
				105,222,951
				100,000,000
				200,000,000
				99,853,375
	定期預貯金	世田谷目黒農協本店 昭和信用金庫本店	公益目的保有財産であり、運用益を管理費の財源として使用している	20,000,000
				10,000,000
	普通預金	三菱UFJ銀行三軒茶屋支店	公益目的保有財産であり、運用益を管理費の財源として使用している	18,917,304

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
特定資産	退職給付引当資産	・ 有価証券 第374回大阪府公募債 第481回大阪府公募公債 第236回共同発行市場公募地方	職員に対する退職金の支払いに備えた積立資産	10,025,932
				100,000,000
				49,953,670
		・ 定期預金 東京中央農協千歳支店 世田谷目黒農協本店 昭和信用金庫本店		18,890,000
		・ 普通預金 三菱UFJ銀行三軒茶屋支店		32,100,000
特定資産	使途指定寄付積立資産	・ 普通預金 三菱UFJ銀行三軒茶屋支店	せたがや文化財団の自主事業のための資金として管理	10,000,000
				46,826,849
その他の固定資産	建物附属設備	スポットライト、配線設備等	公益目的保有財産であり、次の割合で用に供している 公益目的事業：98.8%	8,172,166
			収益事業：0.9%	36,522,135
			管理費：0.3%	332,691
	器具備品	映像・音響システム、展示ケース等	公益目的保有財産であり、次の割合で用に供している 公益目的事業：98.8%	110,897
			収益事業：0.9%	44,200,604
			管理費：0.3%	402,637
	リース資産	サーバー、パソコン等一式	公益目的保有財産であり、次の割合で用に供している 公益目的事業：98.8%	134,212
			収益事業：0.9%	43,965,150
			管理費：0.3%	400,492
	ソフトウェア	財団会計システム、美術館・文学館収蔵品管理システム等	公益目的保有財産であり、次の割合で用に供している 公益目的事業：98.8%	133,497
			収益事業：0.9%	8,685,098
			管理費：0.3%	79,115
	敷金・保証金	駐車場保証金	公益目的事業の用に供している	26,372
				60,000
	大規模事業等実施積立金	・ 定期預金 三菱UFJ銀行世田谷支店 東京中央農協千歳支店	公益目的事業に充当する積立資産	15,000,000
				16,500,000

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
その他の 固定資産	経営安定化積立金	・ 定期預金 昭和信用金庫本店 東京中央農協千歳支店 世田谷目黒農協本店	公益目的事業に充当 する積立資産	60,000,000
		・ 普通預金 三菱UFJ銀行三軒茶屋支店		22,550,000
				124,900,000
	事故対策積立金	・ 定期預金 世田谷信用金庫用賀支店 世田谷信用金庫烏山支店	公益目的事業に充当 する積立資産	7,550,000
				60,000,000
				30,000,000
固定資産合計				1,547,521,517
資産合計				2,458,450,744
(流動負債)	未払金		今年度事業費等	259,685,096
			未払法人税等	786,700
			未払消費税等	10,295,900
			未払社会保険料等	8,316,560
	前受金		チケット払い戻し分	165,262
			翌年度事業チケット 収入、翌年度分施設 利用料	26,075,620
	預り金		源泉所得税、住民 税、社会保険料等	12,939,896
			チケット代	27,223,997
			区への補助金返還額	107,426,000
			受託販売商品の業者 支払い分等	2,282,165
	賞与引当金		職員の賞与支払いに 備えた引当金	32,545,726
	リース債務		リース会計処理に伴 う負債(1年以内に支 払うもの)	20,154,262
流動負債合計				507,897,184
(固定負債)	退職給付引当金	職員に対する退職金 支払いに備えた引当 金	267,796,451	
	リース債務	リース会計処理に伴 う負債(1年を超えて 支払うもの)	25,947,130	
	長期前受金	翌々年度以降分施設 利用料	2,273,060	
固定負債合計				296,016,641
負債合計				803,913,825
正味財産				1,654,536,919

監査報告書

公益財団法人せたがや文化財団
理事長 青柳 正規 様

令和5年5月23日

公益財団法人せたがや文化財団

監事 鈴木重雄 印

監事 太田 一 郎 印

私たち監事は、当財団の令和4年4月1日から令和5年3月31日までの令和4年度の理事の職務の執行について監査を行いましたので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第99条第1項（同法第197条において準用する第99条第1項）＜並びに公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第33条第2項＞の規定に基づき本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会等の重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、当財団の事務所において業務及び財産の状況を調査しました。

以上の方法によって、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書））及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告は、法令及び定款に従い、当財団の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、当財団の財産及び損益の状況をすべて重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上

令和5(2023)年6月30日発行

公益財団法人 せたがや文化財団

〒154-0004

東京都世田谷区太子堂 4-1-1 キャロットタワー5F

TEL 03-5432-1501 FAX 03-5432-1559

MAIL jimukyoku@setagaya-ac.net

URL <https://www.setagaya-bunka.jp>

*この冊子はリサイクルできます